

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

第 3 動物分布調査（鳥類）

1 9 7 8

環境庁自然保護局

第3 動物分布調査（鳥類）

目 次

動物分布調査（鳥類）要綱	3 - 1
別紙1 現地調査実施要領	3 - 11
別紙2 記録用紙	3 - 15
別紙3 現地調査票	3 - 21
別紙4 環境調査票	3 - 27
別紙5 資料調査票	3 - 37
別紙6 繁殖状況票	3 - 41
別紙7 鳥類繁殖状況票綴作成要領	3 - 50
別紙8 鳥類環境調査票綴作成要領	3 - 52

表 目 次

表1 調査対象鳥類種名表	3 - 4
表2 環境要素の部分	3 - 32
表3 繁殖可能性の区分	3 - 45

動物分布調査（鳥類）要綱

1. 調査の目的

わが国に生息する鳥類の繁殖状況を把握するために、日本国内で繁殖の知られている鳥類を対象として繁殖期における分布について調査する。

2. 調査実施者

国が財団法人日本野鳥の会に委託して実施する。

3. 調査対象地域

全国 47 都道府県全域について調査する。

4. 調査実施期間

契約締結の日から昭和 54 年 3 月 31 日までとする。

5. 調査内容

- (1) 調査対象の鳥類は、表 1「調査対象鳥類種名表」に掲げたものとする。それ以外でも、繁殖の可能性を否定できないものは、野生化した外国産飼鳥を含め追加してさしつかえない。

(2) 調査事項は次のとおりとする。

ア 現地調査

(ア) 生息鳥類の種類と繁殖の可能性

(イ) 生息環境の概要

(ウ) 個体数の概況

イ 資料調査

(ア) 生息鳥類の種類と繁殖の可能性

(イ) 生息地の位置

(ウ) 観察年月日

6 . 調査方法

(1) 現地調査

別紙 1 「現地調査実施要領」により実施する。

(2) 資料調査

印刷公表されたものに限らず、個人の観察記録など、本調査で実施する「(1) 現地調査」以外の鳥類の繁殖に関する資料を収集する。

7 . 調査結果のとりまとめ

現地調査及び資料調査の結果は下記の調査票にとり

まとめる。

(1) 現地調査票及び環境調査票

現地調査の結果は、調査コースごとに別紙 3 「現地調査票」及び、別紙 4 「環境調査票」にとりまとめる。

(2) 資料調査票

資料調査の結果は、サブメッシュ（後述）ごとに別紙 5 「資料調査票」にとりまとめる。

(3) 繁殖状況票

現地調査票及び資料調査票をもとにして、サブメッシュ（後述）ごとに別紙 6 「繁殖状況票」にとりまとめる。

8 . 調査結果の報告

受託者は、調査結果をとりまとめ、鳥類繁殖状況票綴鳥類環境調査票綴各 1 部を別紙 7 「鳥類繁殖状況票綴作成要領」、別紙 8 「鳥類環境調査票綴作成要領」により作成し、昭和 54 年 3 月 31 日までに環境庁自然保護局長あて提出する。

表1 調査対象鳥類種名表

鳥類 コード	種名	鳥類 コード	種名
005	カ イ ツ ブ リ	042	チ シ マ ウ ガ ラ ス
008	ア カ エ リ カ イ ツ ブ リ	045	サ ン カ ノ ゴ イ
009	カ ン ム リ カ イ ツ ブ リ	046	ヨ シ ゴ イ
010	ア ホ ウ ド リ	047	オ オ ヨ シ ゴ イ
012	ク ロ ア シ ア ホ ウ ド リ	048	リ ュ ウ キ ュ ウ ヨ シ ゴ イ
016	シ ロ ハ ラ ミ ズ ナ ギ ト リ	049	ミ ゾ ゴ イ
018	ア ナ ド リ	050	ズ グ ロ ミ ゾ ゴ イ
019	オ オ ミ ズ ナ ギ ド リ	051	ゴ イ サ ギ
020	オ ナ ガ ミ ズ ナ ギ ド リ	053	サ サ ゴ イ
025	セ グ ロ ミ ズ ナ ギ ド リ	055	ア マ サ ギ
028	コ シ ジ ロ ウ ミ ツ バ メ	056	ダ イ サ ギ
029	ヒ メ ク ロ ウ ミ ツ バ メ	057	チ ュ ウ サ ギ
030	ク ロ コ シ ジ ロ ウ ミ ツ バ メ	058	コ サ ギ
031	オ ー ス ト ン ウ ミ ツ バ メ	060	ク ロ サ ギ
032	ク ロ ウ ミ ツ バ メ	061	ア オ サ ギ
033	ア カ オ ネ ッ タ イ チ ョ ウ	062	ム ラ サ キ サ ギ
036	カ ツ オ ド リ	067	ト キ
039	カ ワ ウ	085	オ シ ド リ
040	ウ ミ ウ	086	マ ガ モ
041	ヒ メ ウ	087	カ ル ガ モ

鳥 類 コード	種 名
088	コ ガ モ
090	ヨ シ ガ モ
091	オ カ ヨ シ ガ モ
094	オ ナ ガ ガ モ
095	シ マ ア ジ
096	ハ シ ビ ロ ガ モ
098	ホ シ ハ ジ ロ
102	キ ン ク ロ ハ ジ ロ
109	シ ノ リ ガ モ
113	ミ コ ア イ サ
115	カ ワ ア イ サ
116	ミ サ ゴ
117	ハ チ ク マ
118	ト ビ
119	オ ジ ロ ワ シ
121	オ オ タ カ
123	ツ ミ
124	ハ イ タ カ
127	ノ ス リ
128	サ シ バ

鳥 類 コード	種 名
129	ク マ タ カ
132	イ ヌ ワ シ
134	カ ン ム リ ワ シ
137	チ ュ ウ ヒ
139	ハ ヤ ブ サ
140	チ ゴ ハ ヤ ブ サ
142	チ ヨ ウ ゲ ン ボ ウ
143	ラ イ チ ヨ ウ
144	エ ゾ ラ イ チ ヨ ウ
145	ウ ズ ラ
146	コ ジ ュ ケ イ
147	ヤ マ ド リ
148	キ ジ
149	ミ フ ウ ズ ラ
151	タ ン チ ヨ ウ
157	ク イ ナ
158	オ オ ク イ ナ
159	ヒ メ ク イ ナ
160	ヒ ク イ ナ
163	シ ロ ハ ラ ク イ ナ

鳥 類 コード	種 名
294	ツ ツ ド リ
295	ホ ト ト ギ ス
298	シ マ フ ク ロ ウ
299	ト ラ フ ズ ク
301	コ ノ ハ ズ ク
302	オ オ コ ノ ハ ズ ク
304	ア オ バ ズ ク
305	フ ク ロ ウ
306	ヨ タ カ
307	ハ リ オ ア マ ツ バ メ
308	ヒ メ ア マ ツ バ メ
309	ア マ ツ バ メ
310	ヤ マ セ ミ
312	ア カ シ ョ ウ ビ ン
314	カ ワ セ ミ
316	ブ ッ ポ ウ ソ ウ
318	ア リ ス イ
319	ア オ ゲ ラ
320	ヤ マ ゲ ラ
321	ノ ク チ ゲ ラ

鳥 類 コード	種 名
322	ク マ ゲ ラ
324	ア カ ゲ ラ
325	オ オ ア カ ゲ ラ
326	コ ア カ ゲ ラ
327	コ ゲ ラ
328	ミ ユ ビ ゲ ラ
329	ヤ イ ロ チ ョ ウ
332	ヒ バ リ
334	シ ョ ウ ド ウ ツ バ メ
335	ツ バ メ
336	リュウキュウツバメ
337	コ シ ア カ ツ バ メ
338	イ ワ ツ バ メ
339	イ ワ ミ セ キ レ イ
340	ツ メ ナ ガ セ キ レ イ
342	キ セ キ レ イ
343	ハ ク セ キ レ イ
344	セ グ ロ セ キ レ イ
348	ビ ン ズ イ
353	サ ン シ ョ ウ ク イ

鳥類 コード	種名
354	シロガシラ
355	ヒヨドリ
356	チゴモズ
357	モズ
358	アカモズ
359	オオモズ
363	カワガラス
364	ミソサザイ
365	イワヒバリ
367	カヤクグリ
368	コマドリ
369	アカヒゲ
371	ノゴマ
373	コルリ
374	ルリビタキ
376	ノビタキ
380	イソヒヨドリ
382	マミジロ
383	トラツグミ
386	クロツグミ

鳥類 コード	種名
387	アカハラ
388	アカコッコ
396	ヤブサメ
397	ウグイス
398	オオセツカ
399	エゾセンニュウ
400	シマセンニュウ
401	マキノセンニュウ
402	コヨシキリ
403	オオヨシキリ
407	メボソムシクイ
408	エゾムシクイ
409	センダイムシクイ
410	イイジマムシクイ
411	キクイタダキ
412	セツカ
414	キビタキ
417	オオルリ
418	サメビタキ
420	コサメビタキ

鳥類 コード	種名
421	サンコウチヨウ
422	エナガ
424	ハシブトガラ
425	コガラ
426	ヒガラ
427	ヤマガラ
428	シジュウカラ
429	ゴジュウカラ
430	キバシリ
431	メジロ
432	メグロ
435	ホオジロ
436	コジュリン
438	ホオアカ
442	ミヤマホオジロ
443	シマアオジ
446	ノジコ
447	アオジ
448	クロジ
450	オオジュリン

鳥類 コード	種名
457	カワラヒワ
458	マヒワ
461	ハギマシコ
464	ギンザンマシコ
465	イスカ
467	ベニマシコ
469	ウソ
471	イカル
472	シメ
473	ニュウナイスズメ
474	スズメ
476	コムクドリ
478	ムクドリ
481	カケス
482	ルリカケス
483	オナガ
484	カササギ
485	ホシガラス
488	ハシボソガラス
489	ハシブトガラス

鳥 類 コード	種 名
801	ド バ ト
802	ベ ニ ス ズ メ
803	ブ ン チ ョ ウ
804	ギ ン パ ラ
805	セ キ セ イ イン コ
806	ワカケホンセイインコ

<別紙 1 >

現 地 調 査 実 施 要 領

1 . 総 則

第 2 回自然環境保全基礎調査動物分布調査（鳥類）
の現地調査は、この実施要領に従って行う。

2 . 調査者

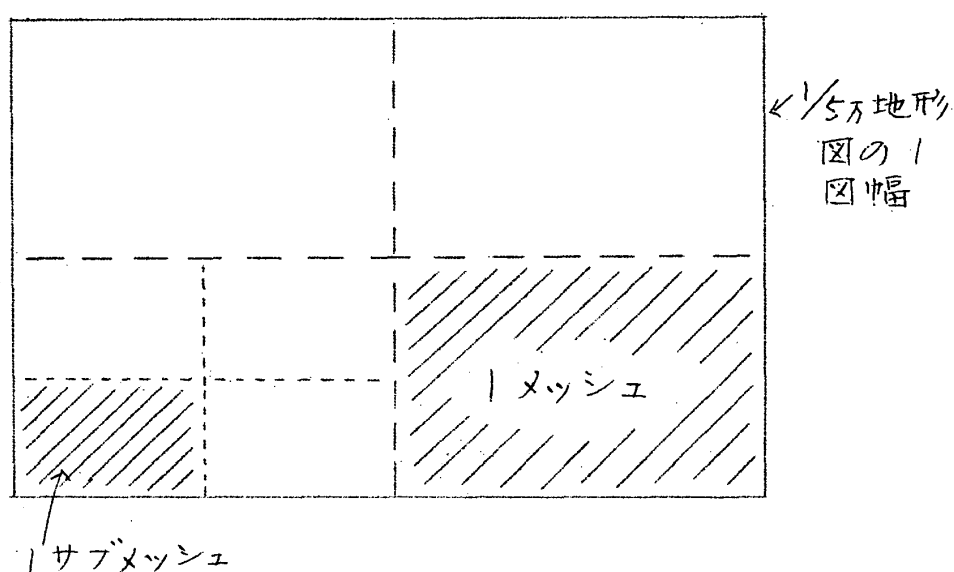
現地調査を実施する者は、日本野鳥の会の支部（以下「支部」という。）あるいは受託者により推薦された者であり、受託者が実施する説明会に出席するかあるいは受託者により直接説明を受けた者とする。

3 . 調査メッシュの選択

国土地理院発行の 1/5 万地形図を縦横それぞれ 2 等分してできる 4 メッシュのうち、鳥類相が豊富であると思われる、2 メッシュを選択し、調査メッシュとする。

4 . 調査コースの設定

上記の4により選択された調査メッシュを更に縦横それぞれ2等分した区画(以下「サブメッシュ」という。)のうち、鳥類相が豊富であると思われるサブメッシュを1区画選択し、その中に全長3Kmの調査コースを1本設定する。



(注) { 4サブメッシュ = 1メッシュ = 1/2.5万地形図1図幅
4メッシュ = 1/5万地形図1図幅

5. 調査期間及び調査回数

昭和53年4月1日から同年8月31日までの期間中に調査コースを1回以上踏査する。

6 . 調査時間

調査は、原則として日の出 30 分前から開始する。

7 . 調査方法

現地調査は、調査コースごとに次の 2 つの方法を併用して実施するが、当調査は、鳥類の繁殖分布図の作成を目的としているので、個体数の推定よりもむしろ、記録種類数及び繁殖に関する観察例を多くするよう努めること。

(1) 定点カウント

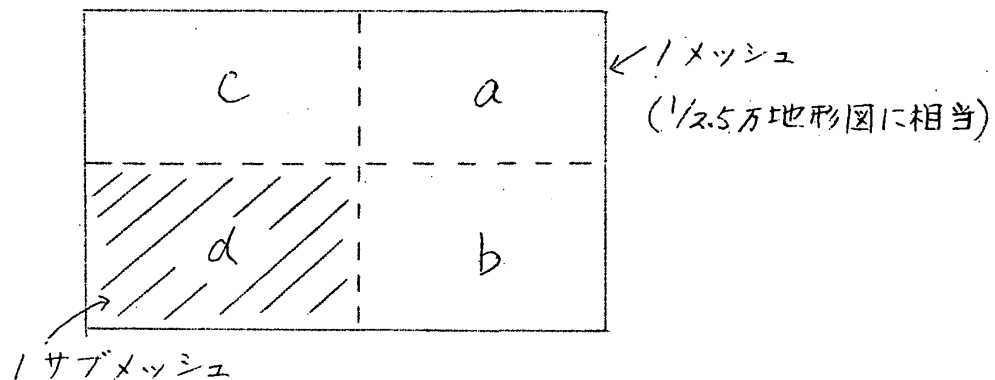
原則として調査コースの開始点及び終了点において、それぞれ 30 分間観察し、観察地点からの距離にかかわらず確認することのできたすべての鳥類について、その種名、繁殖に関する行動等を別紙 2 「記録用紙」に記録する。より多くの鳥類を確認できると判断される場合には、定点カウントを行う地点（以下「定点」という。）を開始点、終了点でなく調査コースの途中に設定してもさしつかえない。

(2) ロードサイドカウント

調査コースを時速 2 Km 程度で歩行しながら、調査コースからの距離にかかわらず確認することのできたすべての鳥類について、その種名、繁殖に関する行動等を別紙 2 「記録用紙」に記録する。この際鳥の行動をよく観察するため、あるいは鳥の巣のあるらしい所を探索するため等、必要がある場合には、立ちどまること、調査コースをはずれることもさしつかえない。

(記録用紙記入上の注意)

1. 記録用紙は同一調査コースであっても、カウントの種類が変わるごとに新たな用紙を使用する。
2. 「1/2.5万地形図」には、当該調査コースが含まれる国土地理院発行1/2.5万地形図が、既発行の場合に、その図幅名を記入する。
3. 「サブメッシュ」には1メッシュ内の右上、右下、左上、左下のサブメッシュをそれぞれa,b,c,dとし該当するものに 印をつける。



4. 「1/5万地形図」には、当該調査コースが含まれる国土地理院発行1/5万地形図の図幅名を記入する。
5. 「カウントの種類」には該当するものに 印をつける。

- 6 . 「調査回数」には、当該調査が、当該調査コースで何回目のものであるかを記入する。
- 7 . 「調査年月日」には、該当の年月日を記入する。
年には、西暦を使用する。
- 8 . 「開始時刻」、「終了時刻」には、該当の時刻を 24 時間表示で記入する。
- 9 . 「天候」、「調査者」、「調査協力者」には、該当する事項を記入する。
- 10 . 「種名」、「個体数」には該当する事項を鳥の出現した順序に従って記入する。
- 11 . 「観察」には、下記の「観察の状況と略号」に従い、該当する欄に V 印を記入する。

略号	観 察 の 状 況
S	囀りを聞いた。(囀には、キツツキ類のドラミングを含める。)
C	囀り以外の声を聞いた。
V	姿を確認した。(飛翔中のものを除く。)
Fl.	飛翔中のものを確認した。

(注) S: Song V: Visual

C: Call fl: flight

12. 「サブメッシュの外」には、記録された鳥が調査コースのあるサブメッシュ以外にいたときにV印を記入する。

13. 「時間経過、繁殖の徴候等」には、定点カウント及びロードサイドカウントとも、10分程度の間隔で時間経過を記入する。

なお、ロードサイドカウントでは、地形、植生の変化点においても適宜時刻を記入するとともに、環境の概況について記録し、「環境調査票」作成の参

考とする。

また、「成鳥が巣のあるらしい所にとびこんだ」
あるいは、「昆虫をくわえたまま調査者を警戒して
いる」等の、繁殖の可能性に関する観察は、でき
るかぎり記入する。

現地調査票

(調査票様式)

現地調査票				1978	*	*		
				(※ ここは記入しなさいこと)				
1/5万地形図		オニメッシュコード	サブメッシュ a. b. c. d.	1/5万地形図				
調査地	都道府県	市	町					
調査者	調査年月日	調査時間	: ~ :	調査回数	/			
1	高類コード	種名	個体数	特	高類コード	種名	個体数	特
2					28			
3					29			
4					30			
5					30			
6					31			
7					32			
8					33			
9					34			
10					35			
11					36			
12					37			
13					38			
14					39			
15					40			
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26					総種類数		総個体数	
27					種		羽	

(現地調査票記入上の注意)

- 1 . 現地調査票は、調査コースの調査 1 回 (定点カウント及びロードサイドカウントのセット) ごとに作成する。
- 2 . 「 1/2.5 万地形図 」 には、当該調査コースが含まれる国土地理院発行 1/2.5 万地形図が既発行の場合、その図幅名を記入する。
- 3 . 「 第 2 次メッシュコード 」 には、1/2.5 万地形図に対応するように、行政管理庁による第 2 次メッシュコードを記入する。
- 4 . 「 サブメッシュ 」 には、該当するものに 印をつける。
- 5 . 「 1/5 万地形図 」 には、当該調査コースが含まれる国土地理院発行 1/5 万地形図の図幅名を記入する。
- 6 . 「 調査地 」 は、市町村単位で記入し、2 市町村以上にわたる場合には、併記する。
- 7 . 「 調査者 」 、 「 調査年月日 」 (西暦) 、 「 調査時間 」 (24 時間表示) には、該当する事項を記入する。
- 8 . 「 調査回数 」 には、当該調査コースの調査回数

(総数)を分母に、当該調査票に記入されている調査が、何回目のものであるかを分子に記入する。

(例)(1) 当該調査コースを4回調査し、その3回目の調査結果を集計した現地調査票では「3/4」と記入する。

(2) 当該調査コースで1回だけ現地調査が行われた場合は「1/1」と記入する。

9. 「鳥類コード」、「種名」は、コードナンバーの若い順に記入する。

10. 「鳥類コード」には表1「調査対象鳥類種名表」に示されたコードナンバーを記入する。

なお、表1「調査対象調査種名表」に掲げられていない種のコードナンバーは、「日本鳥類目録」(日本鳥学会 1974)の通し番号による。

また、表1「調査対象鳥類種名表」及び「日本鳥類目録」に記載されていない種(外国産飼鳥等)については、コードナンバーを付す必要はない。

11. 「個体数」には、現地調査で記録した個体数(定点カウントと、ロードサイドカウントの合計)を記

入する。

なお、調査コースのあるサブメッシュ以外で記録された鳥は、集計から除外する。

12. 「囀」には、囀活動が記録された種類について
印を記入する。

13. 「総種類数」、「総個体数」(調査票右欄最下部)
には、調査コースのあるサブメッシュ内で出現した
鳥の総種類数及び総個体数を記入する。

環境調査票

(調査票 様式)

環境調査票				1978	*	*
(*日記入しないこと)						
1/5万 地形図		木次メッシュコード	ワフメッシュ a. b. c. d	1/5万 地形図		
調査地	都道 村界	郡市	町村			
調査者	所属	支部	調査 年月	調査地 の標高	(最低) m ~	(最高) m
調査コースの環境要素 (コースの左右各々25mの範囲について、該当する□にVを入れる)						
A. 林地 <input type="checkbox"/> 広葉樹林 <input type="checkbox"/> 針葉樹林 <input type="checkbox"/> 混交林 <input type="checkbox"/> ハイマツ風衝低木 <input type="checkbox"/> 竹林 <input type="checkbox"/> 低木林 <input type="checkbox"/> その他 (<input type="checkbox"/> 天然生林 <input type="checkbox"/> 人工造林)						
B. 耕地 <input type="checkbox"/> 果樹園 <input type="checkbox"/> 茶畑 <input type="checkbox"/> 桑園 <input type="checkbox"/> 畑地 <input type="checkbox"/> 水田 <input type="checkbox"/> その他						
C. 草地 <input type="checkbox"/> 背の低い草原 <input type="checkbox"/> 背の高い草原 <input type="checkbox"/> 伐採跡地 <input type="checkbox"/> ワラ原 <input type="checkbox"/> 雪田草原等 <input type="checkbox"/> 道路法面(草畑状) <input type="checkbox"/> その他						
D. 湿地植生 <input type="checkbox"/> 背の低い湿地植生 <input type="checkbox"/> 背の高い湿地植生 <input type="checkbox"/> マングローブ <input type="checkbox"/> その他						
E. 水域 <input type="checkbox"/> 海面 <input type="checkbox"/> 河川 <input type="checkbox"/> 池(5ha未満) <input type="checkbox"/> 湖(5ha以上) <input type="checkbox"/> その他						
F. 裸地(除水浜) <input type="checkbox"/> 岩石地 <input type="checkbox"/> 道路法面(無植生) <input type="checkbox"/> その他						
G. 水系裸地 <input type="checkbox"/> 干潟 <input type="checkbox"/> 砂浜 <input type="checkbox"/> 差地(自然の時の) <input type="checkbox"/> 塩田跡 <input type="checkbox"/> 干拓地 <input type="checkbox"/> 岩礁(有る島) <input type="checkbox"/> その他						
H. その他 <input type="checkbox"/> 仮設建築物 <input type="checkbox"/> 疎雑物 <input type="checkbox"/> 工場地 <input type="checkbox"/> 都市公園(疎林状) <input type="checkbox"/> ゴルフ場 <input type="checkbox"/> その他						
環境要素の比率(%) A(), B(), C(), D(), E(), F(), G(), H()						
<p style="text-align: center;">地図貼付欄</p> <div style="text-align: center;">  </div>						

(環境調査票記入上の注意)

- 1 . 環境調査票は、調査コースごとに作成する。
- 2 . 「1/2.5万地形図」, 「第2次メッシュコード」,
「サブメッシュ」, 「1/5万地形図」, 「調査地」,
「調査者」には、該当する事項を別紙3「現地調査票」
にならい記入する。
- 3 . 「所属」には、調査者の所属する日本野鳥の会の
支部名を記入する。
- 4 . 「調査年月」には、環境調査票記入のもととなっ
た現地調査の実施年(西暦)と月を記入する。(日
付けは必要としない。)
- 5 . 「調査地の標高」には、地形図から10m単位で
読みとり、記入する。
- 6 . 「調査コースの環境要素」には、調査コースを中
心とした全幅50m(左・右それぞれ25m幅)の
範囲内の環境を対象とし、該当する環境要素があれ
ば、欄にV印を記入する。
- 7 . それぞれの環境要素の意味するところは、表2「
環境要素の区分」によるが、いずれにも該当しない

もの、あるいは、非常に小規模なもの等については、適宜判断し、取捨選択してさしつかえない。

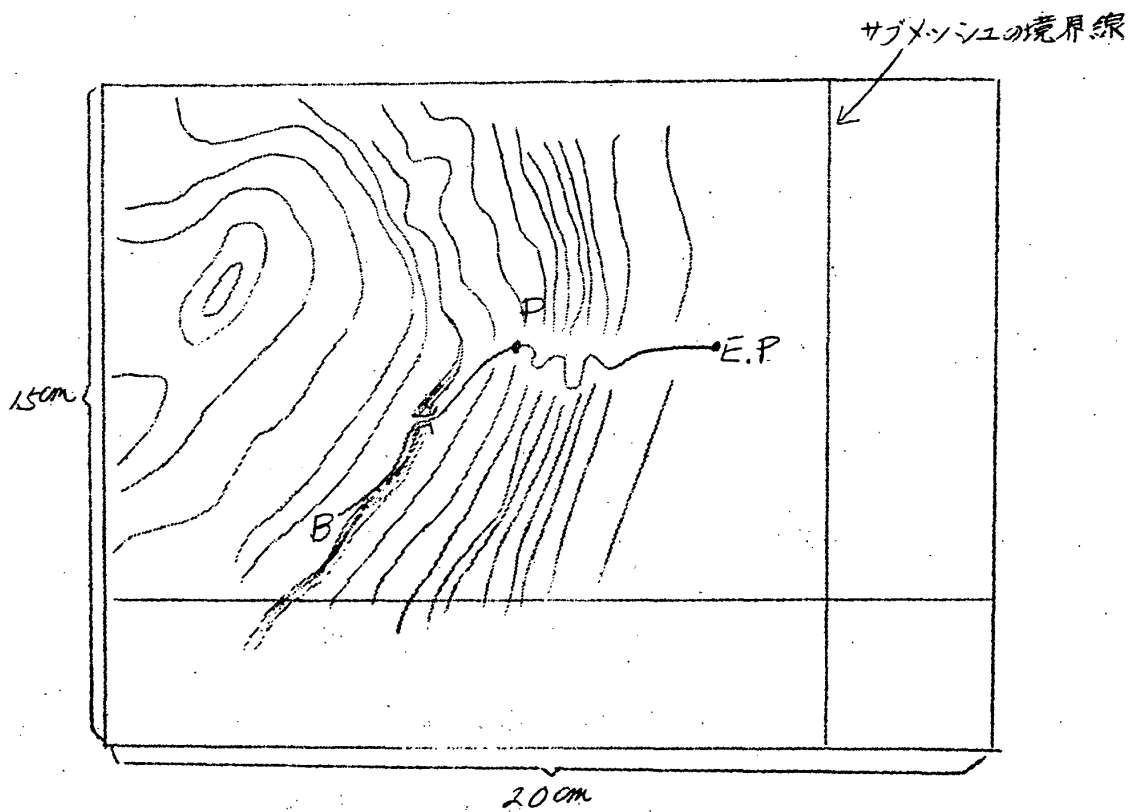
- 8 . 「環境要素の比率」には、調査コースを中心とした全幅 50m (左・右それぞれ 25m 幅) の範囲内の環境要素のおおまかな面積比率を 10 分比で記入する。

なお、1/10 に満たない要素については、最も似かよった状況の要素に含める。

- 9 . 「地図貼付欄」には、1/2.5 万地形図を 20cm (横) × 15cm (縦) の大きさに切断して貼付する、この際次の点に注意する。

- (1) 地図の切断にあたっては、調査コースが、なるべく図面の中央にくるように配慮する。
- (2) 切断した図面内に、サブメッシュの境界線が含まれる場合には、境界線を黒インクで記入する。
- (3) 図面には調査コースを赤線で示し、開始点に「B」、終了点に「E」と朱書きする。

なお定点の位置は調査コース上の赤印で示し、「P」と朱書きする。



- (4) 1/2.5万地形図が未発行の地域については、1/5万地形図を使用すること、この場合、サブメッシュの境界線を必ず記入すること。

表 2 . 環境要素の区分

A . 林 地

- 1 . 「広葉樹林」は、林冠面積のおおよそ 90%以上が広葉樹によって占められている林地をいう。
- 2 . 「針葉樹林」は林冠面積のおおよそ 90%以上が針葉樹によって占められている林地をいう。
- 3 . 「混交林」は、上記の「広葉樹林」、「針葉樹林」のいずれにも該当しない針広混交林をいう。
- 4 . 「低木林」は、樹高が、おおよそ 2 m 以下の低木よりなる林地をいうが、森林の下層植生として存在する場合は、「低木林」としては扱わない。

B . 耕 地

- 1 . 「畑地」には苗圃を含める。
- 2 . 「水田」は、現実に稲作されている状態のものをさす。

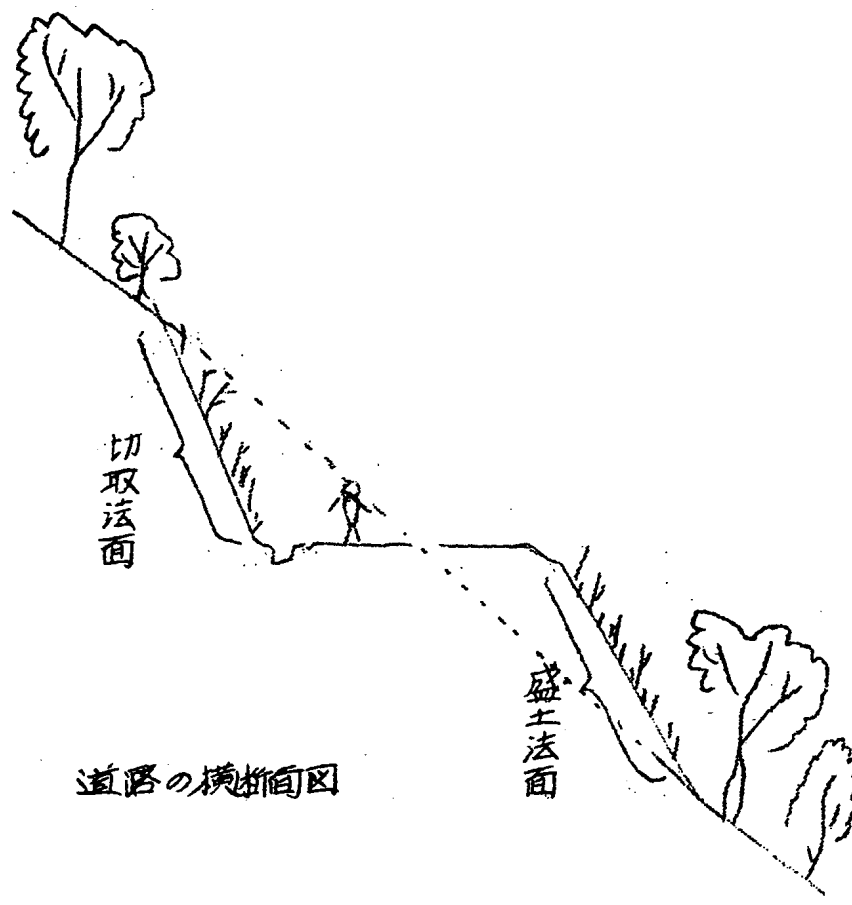
休耕田は、その状態を適宜判断し、C . 草地、
D . 湿地植生あるいは、G . 水素裸地として扱う。

C . 草 地

沼沢地以外に成立する草地をいう。

- 1 . 「背の低い草原」は、シバ群落、オオバコ群落、放牧草地などの草高の低い草原をいう。
- 2 . 「背の高い草原」は、ススキ群落、ヨモギ群落、セイトカアワダチソウ群落など草高の高い草原をいう。
- 3 . 「伐採跡地」は、伐採跡地の草地を意味するが、人工造林地であっても、立木の被度が、おおよそ50%に満たない場合は、伐採跡地として扱う。
- 4 . 森林の林床植生としてのササ群落は、「ササ原」としては扱わない。
- 5 . 「雪田草原等」には、高山ハイデ、風衝草原等の寒帯・高山帯に成立する草原を含む。
- 6 . 「道路法面（草地状）」は、道路の切取法面あるいは盛土法面のうち、草地状になっているものをいう。

岩盤の切取面などのように、植生が、ほとんどみられない法面は、F . 裸地として扱う。



D . 湿地植生

沼沢地に成立する植生をいう。

- 1 . 「背の低い湿地植生」は、ミゾソバ、ミクリ等の草高が比較的低い植物よりなる湿地植生をいう。
- 2 . 「背の高い湿地植生」は、ヨシ、オギ等の草高が比較的高い植物よりなる湿地植生をいう。

E . 水域

水域は、湿地植生、干潟等を除いた開放水面をいう。

1. 「河川」には人工の運河等も含める。
2. 「池」、「湖」には、人造湖も含める。

F. 裸地

海岸地帯、河川敷の裸地は、次のG.水素裸地で扱う。

1. 「岩石地」は、高山帯の岩石地、火山上部の無植生地、及びいわゆるハゲ山等をいう。

G. 水系裸地

海岸地帯、河川敷の裸地をいう。

1. 「干潟」には、河口付近の泥質の河川敷（低水路）を含める。
2. 「砂浜」には、砂利浜、岩石浜、河川敷（砂利、岩石）も含める。
3. 「崖地（自然のもの）」は、河蝕崖、海蝕崖等の自然に成立した水辺の崖地の内、植生のない状態のものをいう。

自然の崖地であっても、植生のあるものについては、A.林地あるいはC.草地として扱う。

4. 「干拓地」は、干拓直後の植生のない状態のものをいう。

5. 「岩礁よりなる島」は、島全体に、ほとんど植生のないものをいう。

H. その他

1. 「密集建築物」と「疎な建築物」との区別は、

次表による。

	1/2.5万地形図上での表示の差
密集建築物	建物の密集地として表示されている
疎な建築物	黒猫家屋で、一戸一戸表示されている

2. 「工場地」は、密集建築物あるいは疎な建築物のいずれで表示されるものであっても、工場である場合は、すべて工場地として扱う。

3. 「都市公園（疎林状）」は、芝生、植栽木からなる疎林状態の都市公園をいう。

都市公園であっても、ある程度の規模があり、森林植生として成熟に近いと判断されるものについては、適宜、A. 林地として扱う。

資料調査票

(調査票 様式)

資料調査票								1978 * *		*	
(※は記入しないこと)											
調査者	1/5 ^ア 地形図	折属	2 ^ア 次Xツシヨコード	支那	ツグツシヨ a. b. c. d.	電話番号	1/5 ^ア 地形図				
類 コード	種 名	禁 種 可能性	観 察 コード	観 察 地	観 年 月 日	観 察 者	出 典 ・ 備 考				

(資料調査票記入上の注意)

1. 資料調査票は、サブメッシュを単位として作成する。
2. 資料調査票を作成するのは調査者が現地調査を担当したサブメッシュだけには限らない。できるかぎり多くのサブメッシュについて、資料調査票が記入されることが望ましい。
3. 資料調査で対象とする資料は、鳥の繁殖の可能性に関する記録のうち、次の条件を満足するものとする。
 - (1) 表3「繁殖可能性の区分」a又はbランクに該当する記録であること。
 - (2) 調査年月あるいは調査期間(年、月)がはっきりしていること。
 - (3) 1973年(昭和48年)以後の記録であること。
 - (4) 調査者が明確であること。
 - (5) 記録された位置が、どのサブメッシュに含まれるか、明確であること。

- 4 . 「1/2.5万地形図」、「第2メッシュコード」、「サブメッシュ」、「1/5万地形図」、「所属」及び「電話番号」は、別紙3「現地調査票」にならぬ該当する事項を記入する。
- 5 . 「調査者」は、調査票記入者の氏名を記入する。
- 6 . 「鳥類コード」、「種名」には、表1「調査対象鳥類種名表」に従って該当するコードナンバー、種名を記入する。

なお、繁殖の可能性のあるものの、表1「調査対象鳥類種名表」に掲げられていない種については、別紙3「現地調査票」にならぬ記入する。
- 7 . 「繁殖可能性」には表3「繁殖可能性の区分」に従って、a又はbのいずれかのランクを記入する。
- 8 . 「観察コード」には、繁殖可能性のランク判定の根拠となった観察事項を表3「繁殖可能性の区分」の「判定項目」よりえらび、コードナンバーで記入する。
- 9 . 「観察地」には、町村名と、集落名（あるいは、大字、小字名、林斑名等）を記入する。

10. 「観察年月(日)」、「観察者」には、その記録を実際に現地で観察した人の氏名と観察年月(できれば日付まで)を記入する。
11. 「出典・備考」には、文献の名称、発行年あるいは、環境の概況、繁殖の経過等を記入する。

繁殖状況票

(調査票様式)

繁殖状況票 ①				1978	*	*																			
1/2.5万 地形図		第2次メッシュコード		サブメッシュ a, b, c, d		1/5万 地形図																			
調査者				所属		支部																			
鳥類 コード	種名	繁殖可能性						観察コード	個体数				鳥類 コード	種名	繁殖可能性						観察コード	個体数			
		a	b	c	d	e	f		-	+	+	+			a	b	c	d	e	f		-	+	+	+
005	カイツアリ												140	チコハヤブサ											
008	アカエリガイツアリ												142	チヨウゲシホウ											
009	カンムリガイツアリ												143	ライチョウ											
010	アホウドリ												144	エゾライチョウ											
012	クロアシホウドリ												145	ウズラ											
016	シロハラシズメドリ												146	ゴジュケイ											
018	アナドリ												147	ヤマドリ											
019	オオミスズメドリ												148	キジ											
020	オナカミスズメドリ												149	ミフウスラ											
025	セクシミスズメドリ												151	タンチョウ											
028	ゴシロウミツバメ												157	クイナ											
029	ヒメクロウミツバメ												158	オオクイナ											
030	クロシロウミツバメ												159	ヒメクイナ											
031	オオストウミツバメ												160	ヒクイナ											
032	クロウミツバメ												163	シロハラクイナ											
033	アカオホシバ												164	バン											
036	カツオドリ												165	ツルクイナ											
039	カワウ												166	オオバン											
040	ウミウ												170	タマシギ											
041	ヒメウ												173	ゴチドリ											
042	チシマウガラス												174	イカルチドリ											
045	サンカノゴイ												175	シロチドリ											
046	ヨシゴイ												182	ケリ											
047	オオヨシゴイ												183	タケリ											
048	リュウギョウヨシゴイ												203	アカアシシギ											
049	ミンゴイ												212	イソシギ											
050	スズロシゴイ												222	ヤマシギ											
051	ゴイサギ												223	アマミヤマシギ											
053	ササゴイ												227	オオジシギ											
055	アマサギ												230	セイタカシギ											
056	ダイサギ												234	ツバメチドリ											
057	チュウサギ												241	オオセグロガモ											
058	ゴサギ												245	ウミネゴ											
060	クロサギ												248	ミツエビガモ											
061	アオサギ												254	オオアジサシ											
062	ムラサキサギ												257	ベニアジサシ											
067	トキ												258	エリクロアジサシ											
085	オシドリ												262	セグロアジサシ											
086	マガモ												263	ゴアジサシ											
087	カルガモ												265	クロアジサシ											
088	コガモ												268	ウミガラス											
090	ヨシガモ												271	ケイマフリ											
091	オカヨシガモ												272	マダラウミスズメ											
094	オナカガモ												273	ウミスズメ											
095	シマアジ												274	カンムリウミスズメ											
096	ハシビロガモ												279	ウトウ											
098	ホシハジロ												281	エトビリガ											
102	キンクロハジロ												283	ガラスバト											
109	シノリガモ												286	シラゴバト											
113	ミコアイサ												288	ギンバト											
115	カワアイサ												289	キンバト											
116	ミサゴ												290	アオバト											
117	ハチクマ												291	スズカアバト											
118	トビ												292	ジュウイチ											
119	オジロウシ												293	カツゴウ											
121	オオタカ												294	ツツドリ											
123	ツミ												295	ホトトギス											
124	ハイタカ												298	シマフクロウ											
127	ノスリ												299	トラフズク											
128	サシバ												301	コノハズク											
129	クマダカ												302	オオゴハズク											
132	イヌワシ												304	アオバズク											
134	ガンムワシ												305	フクロウ											
137	チュウヒ												306	ヨタカ											
139	ハヤブサ												307	ハリオアマツク											

(調査票様式)

(裏面)

繁殖状況票 ②

1978

* *
(※は記入しなさい)

1/2.5万 地形図		第2次メッシュコード	サアメッシュ a, b, c, d	1/5万 地形図
調査者		所属	支部	

鳥類 コード	種名	繁殖可能性						観察コード	個体数				鳥類 コード	種名	繁殖可能性						観察コード	個体数														
		a	b	c	d	e	f		-	+	≠	≡			a	b	c	d	e	f		-	+	≠	≡											
308	ヒメアマツバメ												412	セツカ																						
309	アマツバメ												414	キビタキ																						
310	ヤマセミ												417	オオトルリ																						
312	アカショウビン												418	サメビタキ																						
314	カワセミ												420	ゴサメビタキ																						
316	アツボウソウ												421	サンゴウチョウ																						
318	アリスイ												422	エナカ																						
319	アオケラ												424	ハシブトガラ																						
320	ヤマケラ												425	ヨカラ																						
321	ノグチケラ												426	ヒカラ																						
322	クマケラ												427	ヤマケラ																						
324	アカケラ												428	シジュウカラ																						
325	オオアカケラ												429	ゴジュウカラ																						
326	ゴアカケラ												430	キバシリ																						
327	コケラ												431	メジロ																						
328	ミユビケラ												432	メクロ																						
329	セイロチョウ												435	ホオジロ																						
332	ヒバリ												436	ゴジュリン																						
334	ショウドウツバメ												438	ホオアカ																						
335	ツバメ												442	ミヤマホオジロ																						
336	リュウキュウツバメ												443	シマアオジ																						
337	ゴシアカツバメ												446	ノジゴ																						
338	イワツバメ												447	アオジ																						
339	イワシセキレイ												448	クロジ																						
340	ツメナガセキレイ												450	オオゴジュリン																						
342	キセキレイ												457	カワラヒワ																						
343	ハクセキレイ												458	マヒワ																						
344	セクロセキレイ												461	ハギマシコ																						
348	ヒンズイ												464	ギンサシマシコ																						
353	サンショウクイ												465	イスカ																						
354	シロガシラ												467	ベニマシコ																						
355	ヒヨドリ												469	ウソ																						
356	チゴモズ												471	イカル																						
357	モズ												472	シメ																						
358	アカモズ												473	ニュウアイヌメ																						
359	オオモズ												474	スズメ																						
363	カワカラス												476	コムクドリ																						
364	ミソサザイ												478	ムクドリ																						
365	イワヒバリ												481	カケス																						
367	カヤクグリ												482	ルリカケス																						
368	コマドリ												483	オナカ																						
369	アカヒゲ												484	カササギ																						
371	ノゴマ												485	ホシガラス																						
373	コルリ												488	ハシボソガラス																						
374	ルリビタキ												489	ハシブトガラス																						
376	ノビタキ												801	ドバト																						
380	イソヒヨドリ												802	ベニスズメ																						
382	マミジロ												803	ブンチョウ																						
383	トラツグミ												804	ギンハナ																						
386	クロツグミ												805	セキセイインコ																						
387	アカハラ												806	ワカボソセイインコ																						
388	アカコッコ																																			
396	ヤブサメ																																			
397	ウグイス																																			
398	オオセツカ																																			
399	エソセンニョウ																																			
400	シマセンニョウ																																			
401	マキノセンニョウ																																			
402	ゴヨシキリ																																			
403	オオヨシキリ																																			
407	メボソムシクイ																																			
408	エソムシクイ																																			
409	セウダムシクイ																																			
410	イシダムシクイ																																			
411	キクイタタキ																																			

(繁殖状況票記入上の注意)

1. 繁殖状況票は、サブメッシュごとに作成する。
2. 繁殖状況票は、黒インクを用いて、できるかぎり明瞭に、記入する。
3. 「1/2.5万地形図」, 「第2次メッシュコード」, 「サブメッシュ」, 「1/5万地形図」, 「調査者」, 「所属」は、別紙4「環境調査票」にならい、該当する事項を記入する。
4. 「繁殖可能性」は、記録用紙、現地調査票、資料調査票をもとに、表3「繁殖可能性の区分」に従って判定し、該当するランクの欄に、黒インクを用いて、印を記入する。
5. 「観察コード」は、繁殖可能性のランク判定の根拠となった観察事項を表3「繁殖可能性の区分」の「判定項目」より選び、コードナンバーで記入する。
なお、複数の観察事項がある場合には、同一ランク内であれば観察コードを列記し、異なるランクに相当する観察事項であれば、低いランクの観察コードは記入する必要はない。

6. 「個体数」は、現地調査の結果にもとづき、下記の「個体数の区分」に従って判定し、該当する欄に黒インクを用いて 印を記入する。

なお、個体数の状況が不明のサブメッシュ（例えば当調査要綱による現地調査の行われなかったサブメッシュ）や、個体数の状況が不明の種（例えば、現地調査において出現しなかった種）については、個体数欄は記入しない。

個体数の区分

ランク	カウントによる総個体数
-	1 羽
+	2 ~ 5 羽
廿	6 ~ 10 羽
卅	11 ~ 羽

表3 繁殖可能性の区分

ランク	現地調査に関する基準	資料調査に関する基準
a	繁殖を確認した。	繁殖確認に相当する記録がある（単に「繁殖している」という記録は、繁殖確認とは扱わない。）
b	繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある。	bランクが与えられる事項に該当する記録がある。
c	生息を確認したが、繁殖については、何ともいえない。	生息の記録はあるが、繁殖については、何ともいえない。
d	目撃、確認したが、繁殖の可能性は、おそくない。	確認の記録があるが、繁殖の可能性は、おそくない。
e	生息は確認できなかったが、環境から推測して、繁殖期における生息が考えられる。	生息の記録はないが、環境から推測して繁殖期における生息が考えられる。

ランク	現地調査に関する基準	資料調査に関する基準
f	繁殖期における生息を確認できず、繁殖については何ともいえない。	繁殖期における生息の記録がなく、繁殖については何ともいえない。

(注) ランク判定の根拠となる観察事項については、
次の「判定項目」によること。

判定項目

ランク		観 察 事 項	観 察 コード
a	成鳥について	成鳥が巣あるいは巣のあるらしい所にくりかえし出入りしている。	10
		成鳥が、抱卵又は抱擁しているらしい。あるいはその確認をした。	11
		成鳥が巣のあるらしい所にとびこむと同時に、ヒナの気飼声がきかれた。	12
		成長がヒナのフンを運搬している。	13
		成長が明らかに同一サブメッシュ内にある巣のヒナに餌を運搬している（餌をくわえたまま観察者を警戒し移動する気配のない場合を含める。）	14

ランク		観 察 事 項	観 察 コード
		擬傷をみた。	15
	巣についで	巣立ち後の巣がある。ただし、最近（ここ5年以内）使用された巣であること	20
	卵についで	卵のある巣をみた。	30
		成長がおちついてすわっている巣の近くで、その種の卵殻が見つかった。	31
	ヒナについて	ヒナのいる巣をみた。	40
		ヒナの声をきいた。	41
	巣立ちヒナについで	巣からほとんど移動していないと思われる巣立ちヒナをみた。	50
b	成鳥について	その種が営巣しえる環境で繁殖期に、その種の囀り（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が、冬鳥、旅鳥かも知れない時は除く。	60
		求愛行動をみた。ただしその鳥が、冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。	61

ランク		観 察 事 項	観 察 コード
		交尾行動をみた。ただし、その鳥が、冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く。	62
		威嚇行動、警戒行動により、付近に巣又はヒナの存在が考えられる。	63
		巣があると思われる所に成鳥が訪れた。ただし、そこが埒である場合は除く。	64
		造巣行動（巣穴掘りを含む）を見た。	65
		成鳥が巣材を運搬している。ただし明らかに同一サブメッシュ内に巣を構えていると思われる場合に限る。	66
		成鳥がヒナへの餌を運搬しているが、巣が同一サブメッシュ内にあるかどうかわからない。	67
	巣について	巣を発見したが、卵、ヒナともなく、成鳥がそこに来るのを認めなかった。ただし最近（ここ5年以内）作られた巣であること。	70
	巣立ちヒナについて	かなり移動可能と思われる巣立ちヒナを見た。	80
		家族群を見た	81

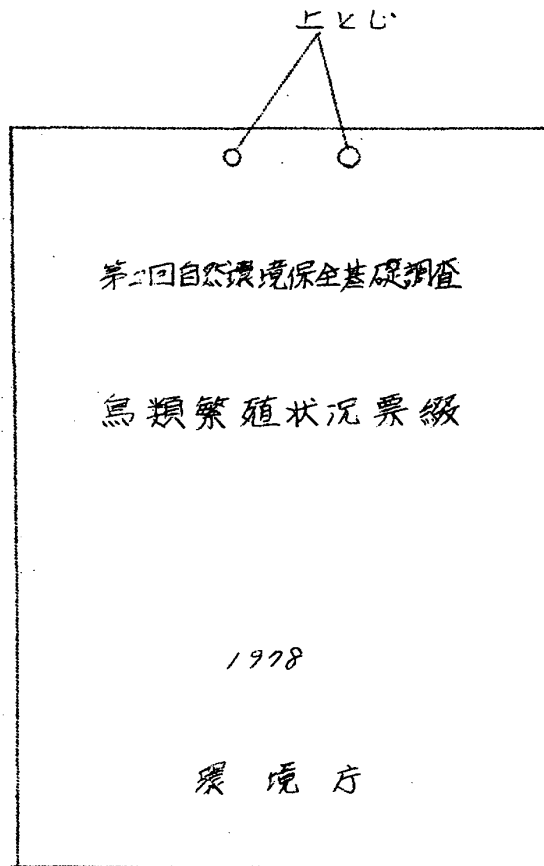
ランク		観 察 事 項
c		その種が営巢し得る環境で、繁殖期に、その種を確認したが、他には繁殖の徴候が認められない。
d		その種の生息を確認したが、同一サブメッシュ内に、その種が営巢し得る環境はないと思われる。 (例) アマツバメ類、ワシタカ類の上空通過を確認したが、同一サブメッシュ内には、営巢可能な環境はないと考えられる場合。
e		現地調査による生息の確認はできなかったが、現地調査の印象から、その種の生息が、ほぼ確実と思われる。 (例) 夜間活動する鳥の場合など (注) 現地調査の印象をもとにすること。現地調査の行われなかった地域について、地形図、植生図などから生息が推測されるという意味ではない。

<別紙 7 >

鳥類繁殖状況票綴作成要領

1. 表紙

表紙は、B4版、上とじ、橙色、厚さは215kg
(レザック66Y程度)とし、様式は下図による
ものとする。



配列

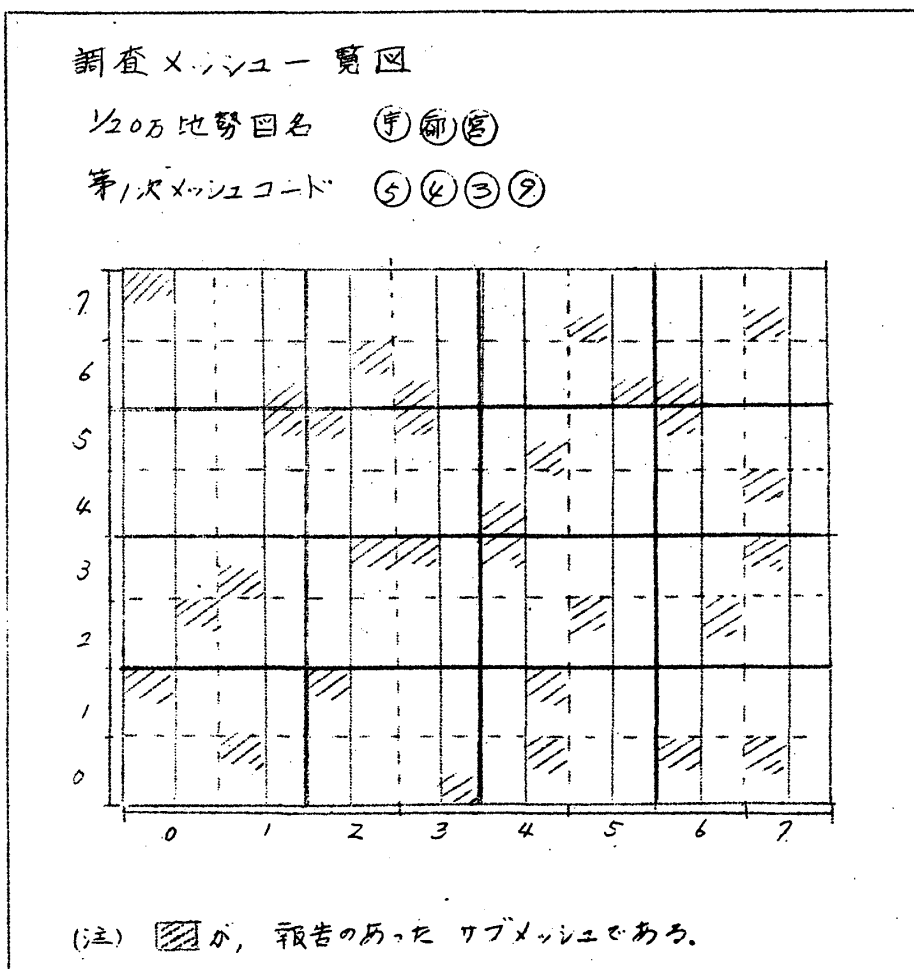
配列は、以下の順とする。

- (1) 表紙
 - (2) 繁殖状況票
 - (3) 裏表紙
3. 繁殖状況票

繁殖状況票は、第2次メッシュコードの若い順に配列する。

なお、第1次メッシュコードが変わるたびに下図様式の「調査メッシュ一覧図」を挿入する。

(例：宇都宮)

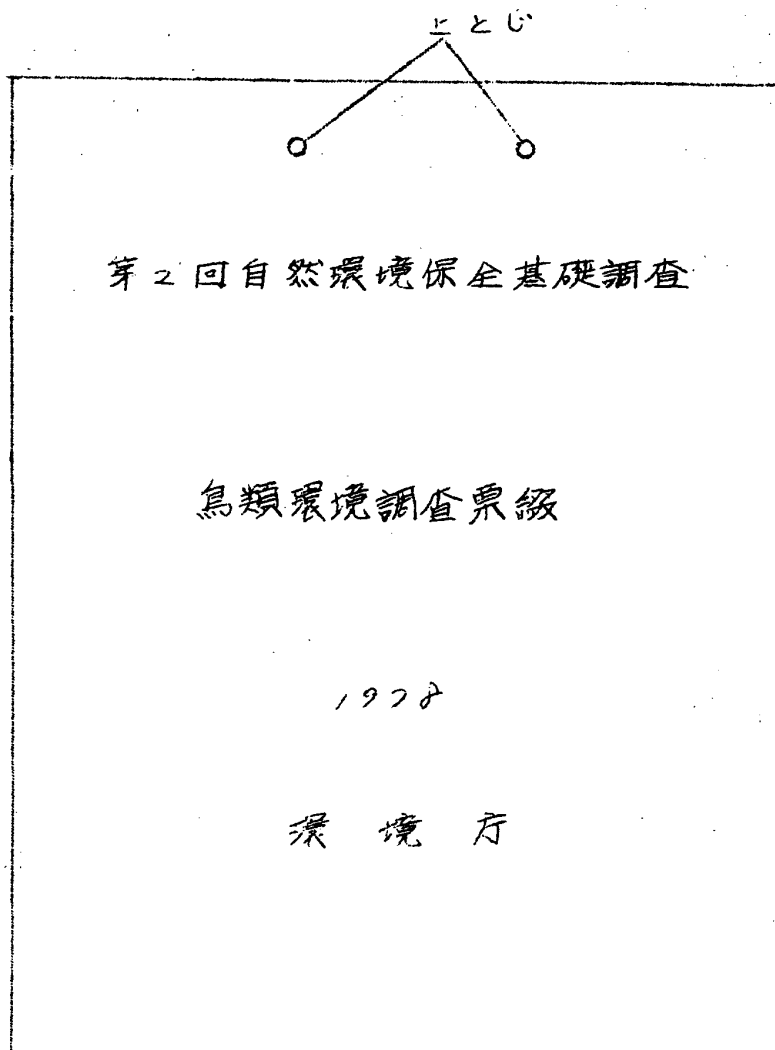


<別紙 8 >

鳥類環境調査票綴作成要領

1. 表紙

表紙は、B4版、上とじ、橙色、厚さは215kg
(レザック66Y程度)とし、様式は下図による
ものとする。



2 . 配列

配列は、以下の順とする。

- (1) 表紙
- (2) 環境調査票 (第 2 次メッシュコードの若い順)
- (3) 裏表紙

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

第 4 動物分布調査（両生類・は虫類）

1 9 7 8

環境庁自然保護局

第4 動物分布調査（両生類・は虫類）

目 次

	頁
動物分布調査（両生類・は虫類）要綱	2
別紙1 両生類・は虫類分布図	6
別紙2 両生類・は虫類調査票	9
別紙3 報告書作成要領	16
別紙4 両生類・は虫類調査票綴	25
別紙5 両生類・は虫類分布図帳作成要領	27

表 目 次

表1 調査対象両生類・は虫類種名表	5
-------------------	---

動物分布調査（両生類・は虫類）要綱

1. 調査の目的

わが国に生息する両生類・は虫類の生息状況を把握するため、絶滅のおそれのある種、学術上重要な種等の生息地、分布について調査する。

2. 調査実施者

国が財団法人日本自然保護協会に委託して実施する。

3. 調査対象地域

全国 47 都道府県全域について調査する。

4. 調査実施期間

契約締結の日から昭和 54 年 3 月 31 日までとする。

5. 調査内容

(1) 調査の対象とする両生類・は虫類は、表 1「調査対象両生類・は虫類種名表」に掲げたものとする。それ以外でも重要と思われる種類があれば、適宜追加して差しつかえない。

(2) 調査事項は次のとおりとする。

ア. 生息地の位置

イ. 生息環境、生息状況の概況

ウ 保護の現状

6. 調査方法

調査は主として、既存資料、その他の知見の収集等により、都道府県単位で実施する。

7. 調査結果のとりまとめ

受託者は、調査結果を都道府県を単位として下記の図票にとりまとめる。

(1) 両生類・は虫類分布図

両生類・は虫類の分布は、別紙1「両生類・は虫類分布図」(以下「分布図」という。)にならい国土地理院発行の1/20万地勢図に表示する。

(2) 両生類・は虫類調査票

調査した事項は、別紙2「両生類・は虫類調査票」(以下「調査票」という。)にとりまとめる。

8. 調査結果の報告

受託者は、調査結果をとりまとめ報告書 部、両生類・は虫類調査票綴及び両生類・は虫類分布図帳各1部を、それぞれ別紙3「報告書作成要領」、別紙4「両生類・は虫類調査票綴作成要領」、別紙5「両生類・は虫類分布図帳作成要領」により作成し、昭和54年3月

31 日までに、環境庁自然保護局長あて提出する。

<表1> 調査対象両生類・は虫類種名表

<両生類>

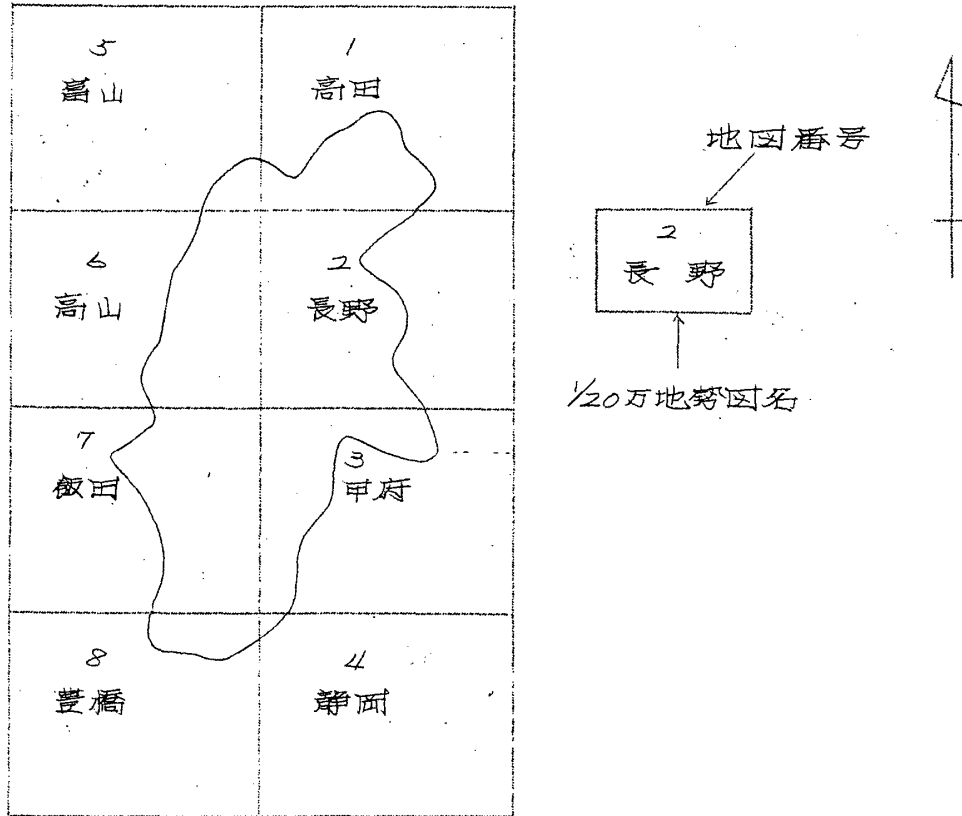
種名	種略号
ダルマガエル(基亜種)	Rb
イボイモリ	Ut
ナミエガエル	Rj
イシカワガエル	Rg
オットンガエル	Rs
ホルストガエル	Rr
モリアオガエル	Pe
オオサンショウウオ	Ug
<止水性サンショウウオ類>	
カスミサンショウウオ	Uf
トウキョウサンショウウオ	Ug
ツシマサンショウウオ	Uj
オオイタサンショウウオ	Ub
トウホクサンショウウオ	Ud
クロサンショウウオ	Uh
サドサンショウウオ	Ui
エゾサンショウウオ	Um
アベサンショウウオ	Ua
キタサンショウウオ	Uo
<流水性サンショウウオ類>	
ブチサンショウウオ	Ue
オキサンショウウオ	Uj
ヒダサンショウウオ	Uc
ベッコウサンショウウオ	Uk
オオダイガハラサンショウウオ	Un
ハコネサンショウウオ	Up

<は虫類>

種名	種略号
セマルハコガメ	Ta
リュウキュウヤマガメ	Tg
タワヤモリ	Gc
<トカゲモドキ類>	
クロイワトカゲモドキ	Gh
マダラトカゲモドキ	Gi
オビトカゲモドキ	Gj
アカウミガメ	Ca
アオウミガメ	Cb
タイマイ	Cd
エラブウミヘビ	Hi

という。)参照)

地図番号図 (例:長野県)



3. 調査の結果、両生類・は虫類の分布が表示されていない地勢図が出てきても、当該都道府県にかかわりのある地勢図はすべて提出することとし、4.の作業はすべての地勢図について行う。
4. 分布図例のように、地勢図の余白の所定の位置に「タイトル」、「地図番号」、「調査年度」(西暦)、「都道府県名」を黒インクで記入する。
5. 対象種の生息地を黒線でくくり、その位置を示すと

もに、調査票と対照できるように、対照番号と種略号を記入する。

くくり線は幅 0.5mm 程度の線で引くものとし、生息地が小さくて黒線でくくれない場合は、小黑丸(・)で表示する。

また、文献、聞き込み等で、生息するという情報があった場合でも、現時点においてそこには生息しないと調査者が考える場合には種略号の後に「？」記号を付す。

- 6 . 対照番号は、地勢図ごとに通し番号とする。
- 7 . 同一地域に 2 種以上の両生類・は虫類が重複して生息する場合は、くくり線等は同一のもので表示し、対照番号と種略号を併記する。
- 8 . 調査票の「取扱」欄が秘であっても、一応当該両生類・は虫類の生息地を分布図に表示する。
- 9 . 地勢図下方の余白には、分布図例のように、それぞれの地勢図ごとに当該分布図の凡例を必ず記入する。
凡例は、種略号一種名の順に記入する。

(調査票様式)

反 投	両生類・は虫類調査票				調査年度	1978
					都道府県	
地図番号	1/25000地形図	道路番号	種 名	資料の種類		確認年月日
				現 文	標 本	
参照番号	地 域 名	所 在 地		市	町	村
				郡		(m)
備考	出典					
調査者	調査者					
姓 名	氏 名					
確 認 個 体 数				調査時点での生息環境条件		
<採 集>		<目 撃>		天 候 ()		
(1) 卵 ()	(1) 卵 ()			気 温 () ℃		
(2) 幼生 ()	(2) 幼生 ()			水 温 () ℃		
(3) 幼体 ()	(3) 幼体 ()			風 (無・微・強)		
(4) 成体 (♂)	(4) 成体 (♂)					
(子)	(子)					
(不明)	(不明)					
	(5) 死体 ()					
	(6) 鳴き声 ()					
	(7) ぬた ()					
生 息 地 の 状 況						
土 地 環 境		地 形		水 環 境		
(1) 常緑広葉樹林 <input type="checkbox"/>		(1) 尾 根 <input type="checkbox"/>	(1) 水田とその水路 <input type="checkbox"/>			
森(2) 落葉広葉樹林 <input type="checkbox"/>		(2) 斜 面 <input type="checkbox"/>	(2) 止 水 (池沼) <input type="checkbox"/>			
林(3) 混 交 林 <input type="checkbox"/>		(3) 谷 凹地 <input type="checkbox"/>	(3) 短皿 1m以下 <input type="checkbox"/>			
(4) 針 葉 樹 林 <input type="checkbox"/>			(4) 短皿 1~5m <input type="checkbox"/>			
(5) 川 原・荒原 <input type="checkbox"/>		(4) 平 坦地 <input type="checkbox"/>	(5) 短皿 5m以上 <input type="checkbox"/>			
(6) 水 田・畔 <input type="checkbox"/>			(6) 溪 流 <input type="checkbox"/>			
草地(7) 林 道 路 傍 <input type="checkbox"/>			(6) 河 川 <input type="checkbox"/>			
(8) 畑 路 傍 <input type="checkbox"/>			(6) 海 岸 <input type="checkbox"/>			
(9) 住宅地・公園 <input type="checkbox"/>			(7) 砂 浜 <input type="checkbox"/>			
(10) 山地草原(含伐採跡) <input type="checkbox"/>			(8) 岩 浜 <input type="checkbox"/>			
(11) 山地湿原 <input type="checkbox"/>						
(12) 平野湿原 <input type="checkbox"/>						
(13) 高山湿原 <input type="checkbox"/>						
(14) 岩石露出地 <input type="checkbox"/>						

(調査票裏面)

生息状況			
	保護の現状	天然記念物	国
県			
			町
			種
			地域
(平面略図)		(断面略図)	
(写真貼付欄)			

(調査票記入上の注意)

- 1 . 調査票の様式は前頁に掲げるものとし、用紙は 110 kg 程度 B 5 版、左側 2 つ穴あきとする。
- 2 . 調査票は、1 地域の 1 動物ごとに作成する。
- 3 . 「調査年度」(西暦)、「都道府県」には、それぞれ該当のものを記入する。
- 4 . 「取扱」には、公表することにより乱獲のおそれがある等その両生類・は虫類の生息地の公表が不都合な場合、赤字で秘と記入する。
- 5 . 「地図番号」、「1/20 万地勢図」には、それぞれ該当するものを記入する。
- 6 . 「種略号」、「種名」には、表 1 「調査対象両生類・は虫類種名表」により、該当するものを記入する。
- 7 . 「対照番号」には、分布図と対照できるように該当する番号を記入する。
- 8 . 「地域名」には、当該種の生息地の具体的名称を、例えば、池、丘陵のように記入する。
- 9 . 「所在市町村」には、当該種の生息地が属する市郡、町村を記入する。
複数の町村にわたって生息する場合には、併記する。

10. 「標高」には、生息地点のおおよその標高を地勢図から読みとって記入する。

11. 「資料の種類」には、当該種が、その地域において生息するという情報が、どのような資料によって得られたかを次の中から選び、該当するものを で囲む。

現認.....調査者が、当該種を現地で確認しているもの

の

文献.....文献に生息に関する記載があるもの

標本.....保存されていた標本のラベルデータによるもの

もの

聞込.....そこに生息するという話を聞いたもの

12. 「確認年月日」には、当該種の生息が確認された年月日を記入する。都市には、西暦を使用する。詳細な確認月、日が不明の場合は、その部分は記入しなくてよい。

(1) 当該種を現地で直接確認した場合には、その年月日を記入する。

(2) 文献からの情報の場合には、文献に記載されている採集あるいは確認の年月日を記入する。

(3) 標本のラベルデータによる場合には、採集の年月日を記入する。

(4) 聞き込みによる情報の場合には、聞きとった相手方が、当該種を確認した年月日を記入する。

13. 「備考」には、文献や聞き込み等で生息するという情報があった場合でも、現時点においてそこには生息しないと調査者が考える場合には、次の記号のいずれかを
で囲むとともにその内容を簡略に記入する。

例 { 河川改修により多分絶滅
ラベルデータの誤りらしい
クロサンショウウオの誤認らしい

記号	理由
絶	かつては生息したが、今は絶滅して生息していないと判断される。
誤	文献や聞き込みの相手方が種を誤って判断していると思われる。

14. 「出典」には、当該種がその地域に生息するという情報の出典を記入する。

(1) 調査票記入者が、現地で直接確認している場合は、
当人の氏名を記入する。

(2) 文献によった場合は、筆者名、資料名、発行年を記入する。

(3) 標本のラベルデータによった場合は、標本を所蔵す

る施設名を記入する。

(4) 聞き込みによった場合には、相手方の氏名を記入する。

15. 「調査者」には、当該調査票作成者の所属、氏名を記入する。

16. 「確認個体数」には、個体数に関する記録がある場合に限り()内に採集あるいは目撃した個体数を記入する。

なお、「幼生」とは、両生類のオタマジャクシ、「幼体」とは、成体と同じ形で、未成熟の個体をそれぞれ意味する。

17. 「調査時点での生息環境条件」には、当該種を確認した時点における環境条件に関する記録がある場合に限り、それぞれ該当する記録を記入する。

18. 「生息地の状況」には、生息地の環境に関する記録がある場合に限り、記入するものとし、土地環境、地形、水環境のそれぞれ該当する項目の欄にレ印を記入する。

19. 「生息状況」には、生息数の増減傾向、産卵時期、生活史上の特色、絶滅の時期などについて、知見のあるかぎりにおいて記入する。

20. 「保護の現状」には、天然記念物以外に当該種、当該生息地に関して現在とられている保護対策について具体的に記入する。

なお、保護管理に関して技術的所見があれば、記入してさしつかえない。

21. 「天然記念物」には、当該種、当該生息地が天然記念物に指定されている場合に、次のいずれかを で囲む。

国.....国指定の天然記念物

県.....都道府県指定の天然記念物

町.....市町村指定の天然記念物

種.....地域を定めず、種が指定されているもの

地域.....地域を定めて指定されているもの

22. 「平面略図」、「断面略図」には、知見のある限りにおいて生息地の略地図を描き、樹木、人家、道路等を記入して生息地の状況を示すとともに、適宜、距離、樹高等の数値を記入する。

23. 「写真貼付欄」には、当該種あるいは当該生息地の写真がある場合、それを貼付する。

<別紙3>

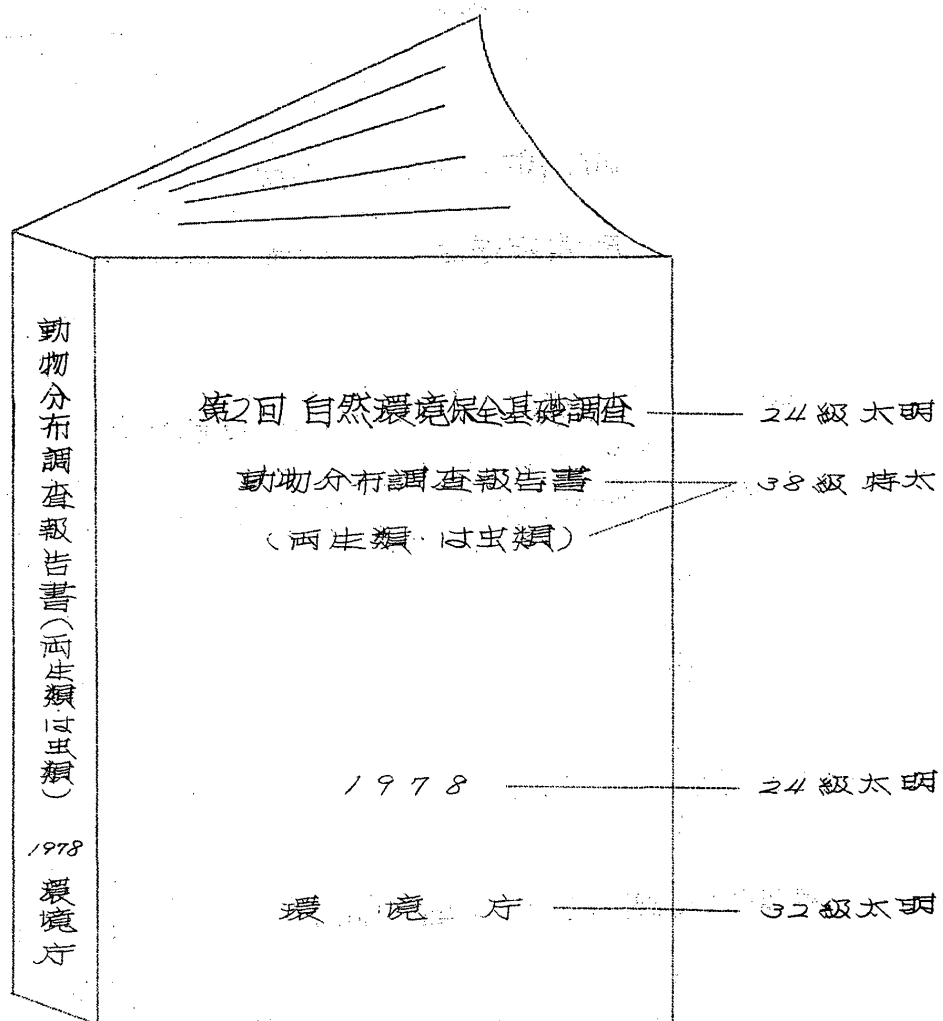
報告書作成要領

1. 規格

B5版左とじ、横書きとする。

2. 表紙及び背文字

表紙（及び裏表紙）は橙色、厚さは215kg（レザック66Y程度）とし、様式は下図によるものとする。



3. 配 列

報告書における各項目の配列は、以下のとおりとする。

- (1) 目次
- (2) 調査概要
- (3) 都道府県ごとの調査結果
 - ア 県の両生類・は虫類の概要
 - イ 県調査対象両生類・は虫類種名表
 - ウ 両生類・は虫類概略分布図
 - エ 両生類・は虫類生息一覧表の見方について
 - オ 両生類・は虫類生息一覧表
- (4) 文献リスト
- (5) 調査担当者名簿

4. 調査概要

調査の実施方法、調査結果のとりまとめ方法等の概要について記載する。特に次の項目については欠落のないように留意する。

- (1) 調査項目
- (2) 調査方法
- (3) 調査結果のとりまとめ方法

5. 都道府県ごとの調査結果

調査結果は、都道府県ごとに次のようにとりまとめる。(行政コードの若い順とする。)

(1) 県の両生類・は虫類の概要

当該県の両生類・は虫類の生息状況、分布について、その概要を、種ごとにとりまとめる。特に、当該県において絶滅したと思われる種、絶滅に頻していると思われる種及び両生類・は虫類の生息環境が悪化している地域については、知見のある限り記載されることが望ましい。

また、当該県で、両生類・は虫類の調査が、十分には実施されていない地域があれば、その旨を記載する。

(2) 県調査対象両生類・は虫類種名表

当該県で調査対象とした両生類・は虫類を次の例にならい表にとりまとめる。

記入の順は、表1「調査対象両生類・は虫類種名表」に掲げた種名の順とする。

(例) 県調査対象両生類・は虫類種名表

種名	学名	種略号	計
イボイモリ	〇〇〇〇 〇〇〇〇	U _t	
ナミエガエル	〇〇〇〇 〇〇〇〇	R ₁	
イシカブガエル	〇〇〇〇 〇〇〇〇	R ₂	
〇〇ガエル	〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇	両生類合計〇種
〇〇ガエル	〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇	
アオウミガメ	〇〇〇〇 〇〇〇〇	C _b	
エラブウミヘビ	〇〇〇〇 〇〇〇〇	H ₁	は虫類合計〇種
総計			〇種

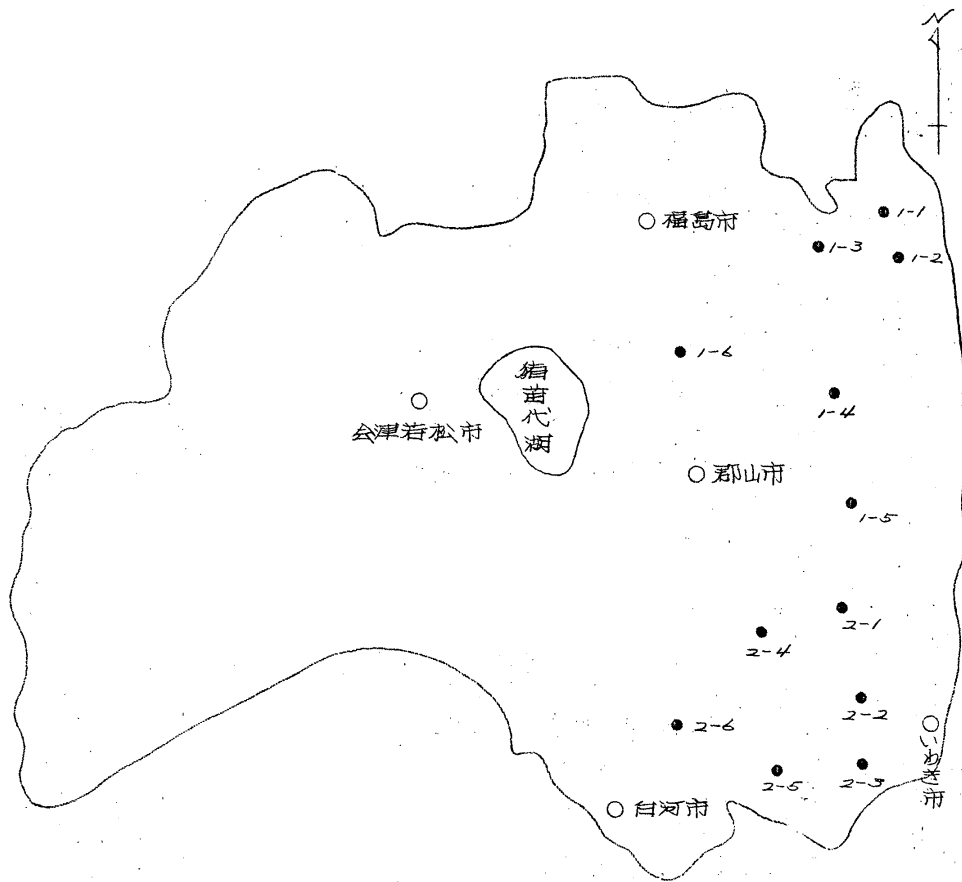
(3) 両生類・は虫類概略分布図

当該県の両生類・は虫類の分布の概要を図示するため、両生類・は虫類概略分布図を作成する。

概略分布図は、分布図(1/20万)を参考にして、当該県の概略図(B5版もしくはB4版に収まる程度の大きさ)に、次の例にならい生息地を記入し、地図番号と対照番号を打つ。

この際、調査票の「取扱」欄が秘のものは、その旨を記して、概略分布図からその生息地を省略する。

(例) 県両生類・は虫類概略分布図



(注) 分布位置のわきの数字は、調査票と対照できるように地図番号 対照番号の順で記入してある。

(4) 両生類・は虫類生息一覧表の見方について
一覧表の見方について、次の例のように解説する。

(例)

両生類・は虫類生息一覧表の見方

一覧表は、1動物ごとに作成してある。

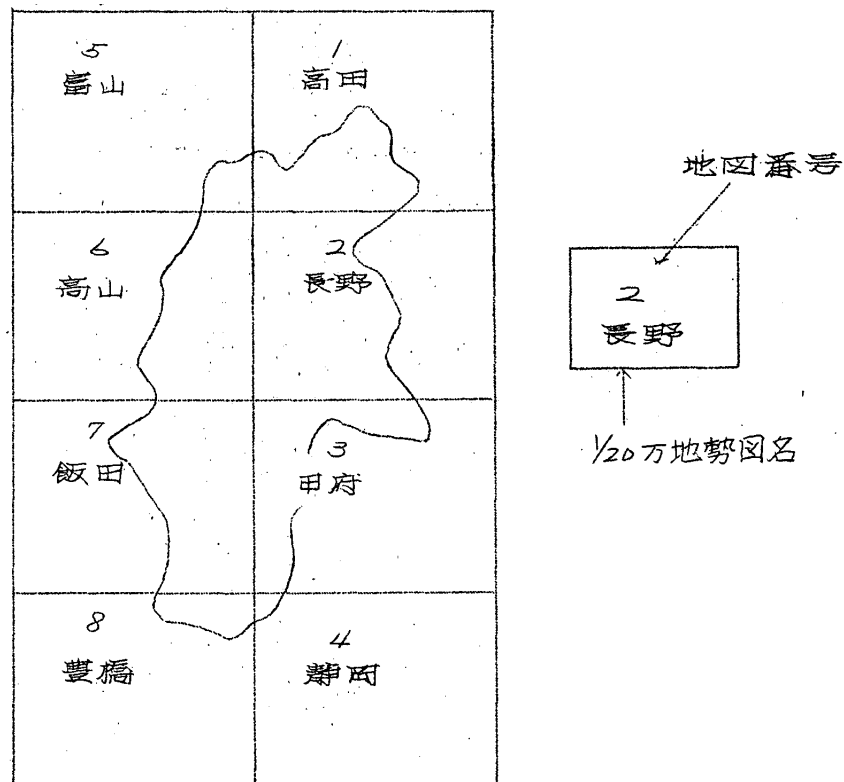
「種略号」は、調査対象種の種ごとに定めた略号

で、「長野県調査対象両生類・は虫類種名表」に表示してある。

「取扱」欄が秘のものは、公表することにより乱獲のおそれがある等のため、生息地に関する事項は記載されていない。

「地図番号」は、1/20万地勢図ごとに付された番号である。(下の「地図番号図」参照)

長野県地図番号図



「対照番号」は、1/20万地勢図ごとに両生類・は虫類の生息地に付けられた通し番号である。

「備考」欄の「絶」「誤」の記号は、調査者が次のように判断していることを表わしている。

記号	判断
絶	かつては生息したが、今は絶滅して生息していないと判断される。
誤	文献や聞き込みの相手方が種を誤って判断していると思われる。

(5) 両生類・は虫類生息一覧表

当該県の両生類・は虫類調査票を整理して次の様式により両生類・は虫類の種ごとに一覧表を作成する。掲載の順は、表1「調査対象両生類・は虫類種名表」に掲げた種名の順とする。

この際、調査票の「取扱」欄が秘の場合は、生息地に関する事項を省略すること。

(様式)

種略号		種名													
取 扱	地 図 番 号	対 照 番 号	1/20万 地 勢 図	地 域 名	所 在 市 町 村	標 高 (m)	生 息 環 境	生 息 状 況	保 護 の 現 状	資 料 の 種 類	出 典	調 査 者 氏 名	備 考		

6. 文献リスト

当調査で使用了文献について、次の表にならとり
まとめる。

なお、文献には通し番号（文献番号という。）をつけ
る。

文献番号	著者名	発行年(西暦)	文献名
1			
2			
3			

7. 調査担当者名簿

当調査に実際に従事した者全員の氏名、所属、分担分
野を次の表にならとりまとめる。

番号	氏名	所属	分担分野
1	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	総括責任者
2	△ △ △ △	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	〇〇県のサンショウウオ類
3	× × × ×	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	△△県北部のカエル類

8. 奥付け

奥付けの様式は下図によるものとする。

第2回 自然環境保全基礎調査
動物分布調査報告書
(両生類・は虫類)

昭和54年3月31日

調査受託者 住所 ○ ○ ○ ○ ○ ○
氏名 ○ ○ ○ ○

環境庁委託調査

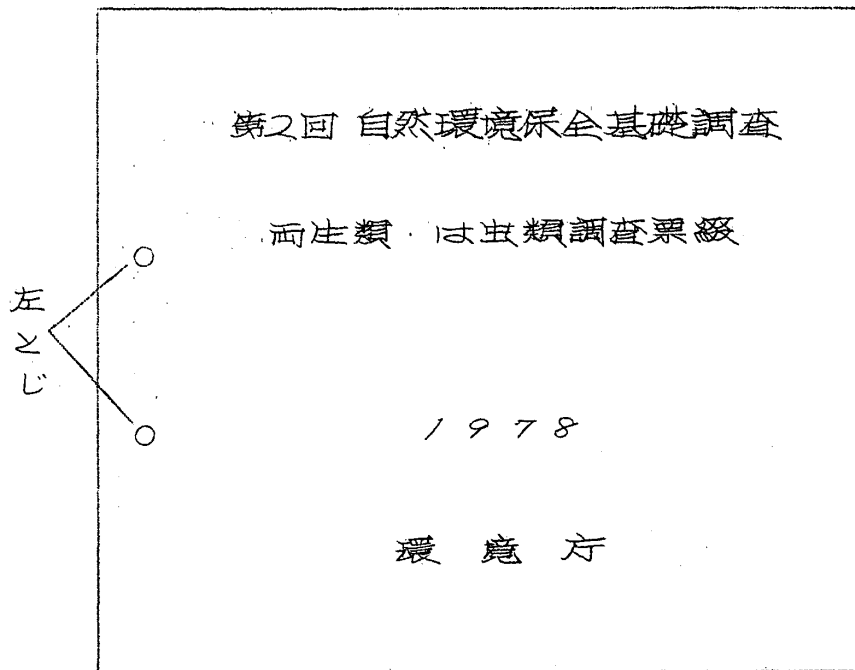
<別紙4>

両生類・は虫類調査票綴作成要領

1. 表紙

表紙（及び裏表紙）は、B5版の大きさとし、色、厚さは報告書に準ずる。

様式は、下図によるものとする。



2. 配列

配列は、以下の順とする。

ア. 表紙

イ. 都道府県ごとの両生類・は虫類調査票

表1「調査対象両生類・は虫類種名表」に掲げた

種名の順

ウ．裏表紙

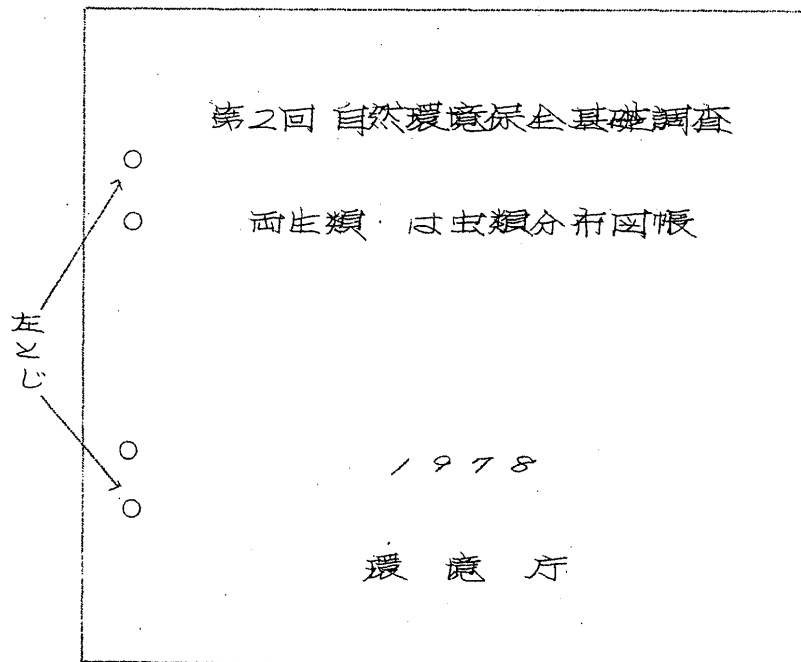
<別紙 5 >

両生類・は虫類分布図帳作成要領

1. 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の1/20万地勢図の大きさとし、表紙の色、厚さは報告書に準ずる。様式は、下図によるものとする。

裏表紙は、厚手のボール紙を使用する。



2. 配列

配列は以下の順とする。

- (1) 表紙
- (2) 都道府県ごとの分布図(行政コード順)

ア． 県地図番号図

イ． 県両生類・は虫類分布図（地図番号順）

（ 3 ） 裏表紙

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

第 5 動物分布調査（淡水魚類）

1 9 7 8

環境庁自然保護局

第5 動物分布調査(淡水魚類)

目 次

	頁
動物分布調査(淡水魚類)要綱	2
別紙1 淡水魚類分布図	6
別紙2 淡水魚類調査票	10
別紙3 報告書作成要領	17
別紙4 淡水魚類分布図帳作成要領	27

表 目 次

表1 調査対象淡水魚類種名表	5
----------------------	---

動物分布調査（淡水魚類）要綱

1 調査の目的

わが国の淡水域に生息する魚類の生息状況を把握するため、絶滅のおそれのある種、学術上重要な種等の生息地、分布について調査する。

2 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

3 調査対象地域

全国 47 都道府県全域について調査する。

4 調査実施期間

契約締結の日から昭和 54 年 3 月 31 日までとする。

5 調査内容

- (1) 調査の対象とする淡水魚類は、表 1「調査対象淡水魚類種名表」に掲げたものとする。それ以外でも都道府県において重要と思われる種類があれば適宜追加してさしつかえない。
- (2) 調査項目は次のとおりとする。

ア 生息地（流域）の位置

イ 生息環境の概要

ウ 保護の現状

6 調査方法

主として既存資料その他の知見の収集等により調査を実施する。

7 調査結果のとりまとめ

受託者は、調査結果を下記の図票にとりまとめる。

(1) 淡水魚類分布図

淡水魚類の分布は、別紙1「淡水魚類分布図」(以下「分布図」という。)にならい、国土地理院発行の1/20万地勢図に表示する。

(2) 淡水魚類調査票

調査した事項は、別紙2「淡水魚類調査票」(以下「調査票」という。)にとりまとめる。

8 調査結果の報告

受託者は調査結果をとりまとめ、報告書150部、報告書付属資料1部及び分布図帳1部をそれぞれ別紙3「

「報告書作成要領」、別紙 4「淡水魚類分布図帳作成要領」により作成し、昭和 54 年 3 月 31 日までに、環境庁自然保護局長あて提出する。

<表1> 調査対象淡水魚類種名表

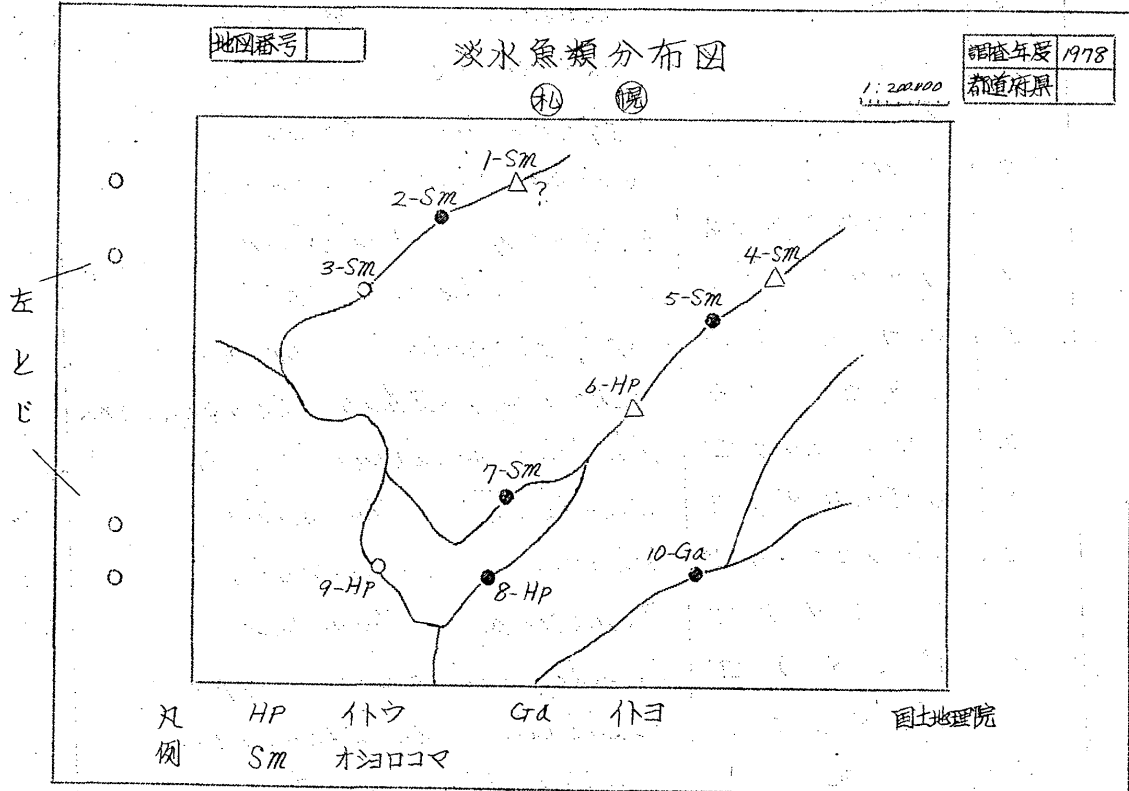
コード番号	魚 種 名	学 名	種略号
1	イ ト ウ	Hucko perryi	HP
2	オ シ ョ ロ コ マ	Salvelinus malma	Sm
3	ゴ ギ	Salvelinus imbrius	Si
4	イシカリワカサギ	Hypomesus olidus	Ho
5	アリアケヒメシラウオ	Neosalanx regani	Nr
6	アリアケシラウオ	Salanx ariakensis	Sa
7	ウケクチウグイ	Tribolodon sp	TSP
8	ヒ ナ モ ロ コ	Aphyocypris chinensis	Ac
9	イ タ セ ン パ ラ	Acheilognathus longipinnis	Al
10	ニッポンバラタナゴ	Rhodeus Ocellatus smithi	Ros
11	カゼトゲタナゴ	Rhodeus atremius	Ra
12	スイゲンゼニタナゴ	Rhodeus Suigensis	Rs
13	ミヤコタナゴ	Tanakia tanago	Tt
14	ゼニタナゴ	Preudoperilampus typus	Pt
15	イシドジョウ	Cobitis takatsuensis	Ct
16	アユモドキ	Leptobotia curta	Lc
17	ネコギギ	Coreobagrus ichikawai	Ci
18	イトヨ (陸封型) (降海型)	Gasterosteus aculeatus aculeatus	Ga
19	ハ リ ヨ	Gasterosteus aculeatus murocephalus	Gm
20	ト ミ ヨ	Pungitius sinensis	Ps
21	ムサシトミヨ	Pungitius sp	PSP
22	イバラトミヨ	Pungitius pungitius	Pp
23	エゾトミヨ	Pungitius tymensis	Pt
24	オヤニラミ	Coreoperca kawamebari	Ck
25	ヤマノカミ	Trachidermus fasciatus	Tf
26	カマキリ	Cottus kazika	Ckz
27	タナゴモドキ	Hysreleotris bipartita	Hb

(注) イトヨは陸封型と降海型のものを区別すること。

<別紙 1 >

淡水魚類分布図

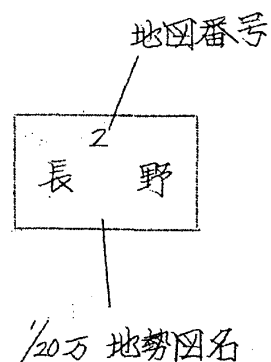
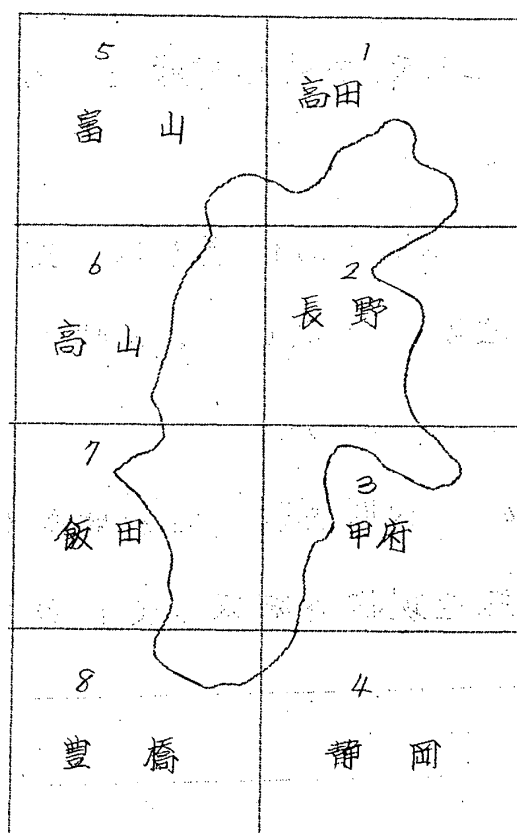
分布図例



(分布図作成上の注意)

- 1 分布図には、必ず国土地理院発行の1/20万地勢図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。
- 2 1/20万地勢図には、都道府県単位で、東側から北から南へ「地図番号」を打つ。(下図(以下「地図番号図」という。)参照)

地図番号図 (例 長野県)



- 3 調査の結果、淡水魚類の分布が表示されていない地勢図が出てきても、当該都道府県にかかわりのある地勢図はすべて提出することとし、4の作業はすべての地勢図について行う。
- 4 分布図例のように地勢図の余白の所定の位置に「タイトル」「地図番号」「調査年度」(西暦)「都道府県名」を黒インクで記入する。

5 文献、聞き取り、その他の資料等により、調査対象魚種の生息地点等を地勢図上に示すとともに、それぞれの地点ごとに調査票と対照できるように対照番号を記入する。

補獲地点や生息地点の位置を次の記号（記号の大きさは2mm程度）で示し、その脇に当該淡水魚類の種略号（表1）を記す。

（例． 2 - 5 m.....対照番号2番の地点でオシロコ
マの生息を現物で確認していることを示す。）

記号	内 容
	調査者が当該種の現物を確認しているもの
	文献に生息に関する記載があるもの
	そこに生息するという話を聞いたもの
?	生息しないのではないかと調査者が考えるもの

なお、県独自で調査対象とした淡水魚類については、学名の属名と種名の頭文字の組みあわせで適宜略号を作成する。

また、文献、聞き込み等で生息するという情報があった場合でも現時点においてそこには生息しないと調査者が考える場合には「？」記号を付す。

- 6 対照番号は、地勢図ごとに通し番号とする。
- 7 調査票の「取扱」欄が秘の場合であっても、一応、当該淡水魚類の生息地を分布図に表示する。
- 8 地勢図の下方の余白には、分布図例のようにそれぞれの地勢図ごとに当該分布図の凡例を必ず記入する。

凡例には種略号 種名の順に記入する。

< 別紙 2 >

淡 水 魚 類 調 査 票

(調 査 票 様 式)

取 扱	淡 水 魚 類 調 査 票					調査年度	1978					
						都道府県						
種 略 号	種 名	方 言			調 査 者							
					所属 氏名							
水域名 (河川・湖沼)		地目番号	1/20万地勢図	保 護 の 現 状								
				天然記念物			地 域					
				国	県	町	種					
生息環境 (水域)の概要							当該水域 における 問題点	水質汚濁				
							ダム・堰					
							河川改修					
							土砂堆積					
							農薬流入					
							外来種等放流					
							捕 獲					
							そ の 他					
地図 番号	対照 番号	所在市町村		標高 (m)	資料の種類			確認年月日			出 典	備 考
		市	町		現認	文献	聞込	年	月	日		

(調査票裏面)

地図 番号	対照 番号	所在地町村		標高 (m)	資料の種類			確認年月日			出典	備考
					現認	文献	聞込	年	月	日		
		市	町									

(調査票記入上の注意)

- 1 調査票の様式は前頁に掲げるものとし、用紙は 110 kg 程度 B 5 版左側 2 つ穴あきとする。
- 2 調査票は 1 水域 1 淡水魚類ごとに作成する。
- 3 「調査年度」(西暦)、「都道府県」には、該当のものを記入する。
- 4 「取扱」には、公表することにより乱獲のおそれがある等、その淡水魚類の生息場所の公表が不都合な場合、赤字で秘と記入する。
- 5 「種略号」、「種名」には、表 1 「調査対象淡水魚類種名表」により、該当のものを記入する。
- 6 「方言」には、当該種について、その地方での標準和名以外の呼び名があれば、それを記入する。
- 7 「調査者」には、当該調査票作成者の所属、氏名を記入する。
- 8 「水域名(河川、湖沼)」には、調査対象となる淡水魚類の生息する水域の名称を河川名あるいは湖沼名で記入する。
- 9 「地図番号」「1/20 万地勢図」には、当該水域が主にごの地勢図にあたるか該当のものを記入する。

10 「保護の現状」には、天然記念物以外に当該種、当該生息地に関して現在とられている保護対策について具体的に記入する。

11 「天然記念物」には、当該種、当該生息地が天然記念物に指定されている場合に、次のいずれかを で囲む。

国.....国指定の天然記念物

県.....都道府県指定の天然記念物

町.....市町村指定の天然記念物

種.....地域を定めず種が指定されているもの

地域.....地域を定めて指定されているもの

12 「生息環境（水域）の概要」には、当該水域の環境の現状を記入する。また、「当該水域における問題点」には、当該水域における淡水魚類の生息にとって問題が発生している場合には該当する欄に を付す。

13 当該種の生息に関するデータについては、生息地点ごとに以下のとおりに処理する。

14 「地図番号」「対照番号」には、分布図と対照でき

るようにそれぞれ該当するものを記入する。

15 「所在市町村」には、当該種の生息地点の市郡、町村名を記入する。

16 「標高」には、生息地点のおおよその標高を地勢図から読みとって記入する。

17 「資料の種類」には、当該種がその地点において生息するという情報がどのような資料によって得られたかを次の中から選び該当する欄に を付す。

現 認.....調査者が当該種の現物を確認しているもの

文 献.....文献に生息に関する記載があるもの

聞 込.....そこに生息するという話を聞いたものの

18 「確認年月日」には、当該種の生息が確認された年月日を記入する。年には西暦を使用する。詳細な確認年月日が不明の場合は、その部分は記入しなくてよい。

(1) 当該種を捕獲等で確認した場合は、捕獲年月日を記入する。

(2) 文献からの情報の場合は、文献に記載されている捕獲年月日を記入する。

(3) 聞き込みによる情報の場合は、聞きとった相手が
当該種を確認した年月日を記入する。

19 「出典」には、当該種がその地点に生息するという
情報の出典を記入する。

(1) 調査者が当該種の現物を確認している場合は、当
人の氏名を記入する。

(2) 文献によった場合は、文献番号(後述)、筆者名、
発行年(西暦)を記入する。

(3) 聞き込みによった場合は、その相手方の氏名を記
入する。

20 「備考」には、文献や聞き込み等で生息するという
情報があった場合でも、現時点においてそこには生息
しないと調査者が考える場合には、その理由を次の記
号で記入する。

記号	理由
絶	かつては生息したが、今は絶滅して生息 していないと判断される。
誤	文献や聞き込みの相手が種を誤って判 断していると思われる。

21 生息を示すデータが多くて調査票のおもてに記入できない場合は、票の裏面に記入する。

<別紙3>

報告書作成要領

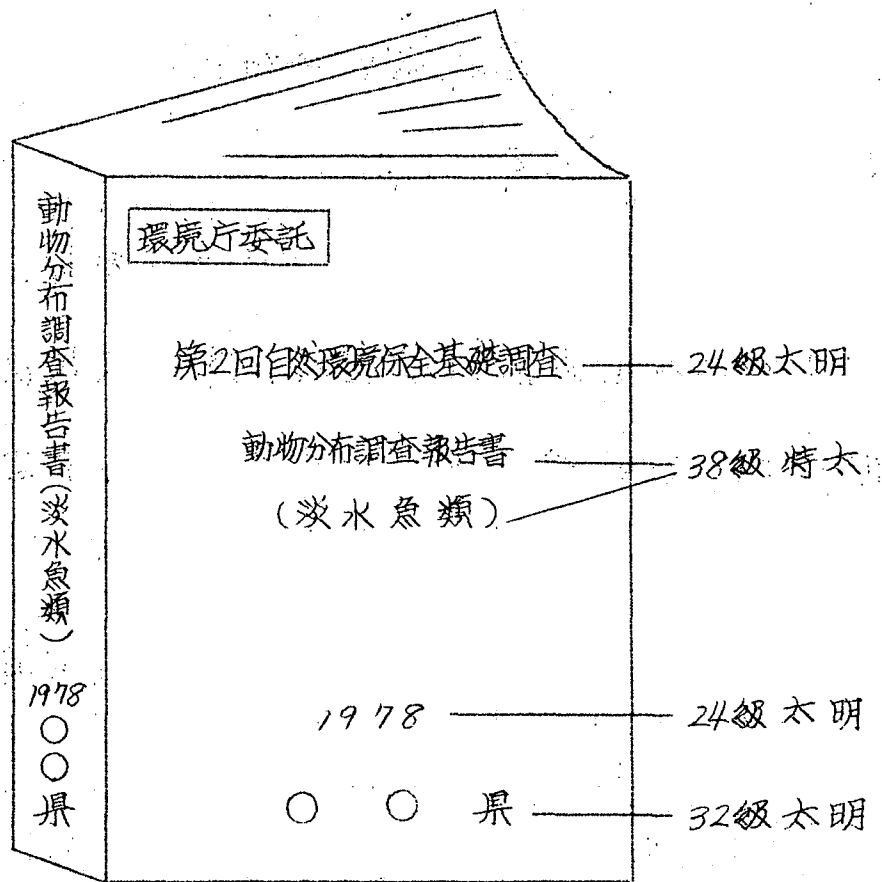
1 規格

B5版、左とじ、横書きとする。

印刷は、タイプ印刷程度とする。

2 表紙及び背文字

表紙（及び裏表紙）は橙色、厚さは215kg（レザック66Y程度）とし、様式は下図によるものとする。



3 配 列

報告書における各項目の配列は以下のとおりとする。

- (1) 目 次
- (2) 県内の淡水魚類の概要
- (3) 調査対象淡水魚類種名表
- (4) 淡水魚類概略分布図
- (5) 淡水魚類調査票の見方について
- (6) 淡水魚類調査票
- (7) 文献リスト
- (8) 調査担当者名簿

4 県内の淡水魚類の概要

県内の淡水魚類の生息状況や分布についてその概要を種ごとにとりまとめる。

特に、県内において絶滅したと思われる種、絶滅の危機に頻していると思われる種及び淡水魚類の生息環境が悪化している地域については、知見のある限り記載されることが望ましい。

また、県内で淡水魚類の調査が十分には実施されていない地域があれば、その旨を記載する。

5 調査対象淡水魚類種名表

当該県で調査対象とした淡水魚類を次の例にならない
表にとりまとめる。

記入の順は表1「調査対象淡水魚類種名表」に掲げ
た種名の順とする。

(例)

調査対象淡水魚類種名表

	魚 種 名	学 名	略号	調査対象種数	
環境庁 指定種	オシヨロコマ		Sm	種	合計 種
県 指定種				種	

6 淡水魚類概略分布図

県内の淡水魚類の分布の概要を図示するため、淡水魚類の種ごとに概略分布図を作成する。

概略分布図は、分布図（1/20万）を参考にして、当該県の概略図（B5版もしくはB4版に収まる程度の大きさ）に次の例にならい生息地を記入し、地図番号と対照番号を打つ。

この際、調査票の「取扱」欄が秘のものは、その旨を記入して概略分布図からその生息地を省略する。

(例) オシヨロコマ概略分布図



(注) 分布位置のわきの数字は、調査票と対照できるように、地図番号 対照番号の順で記入してある。

7 淡水魚類調査票の見方について

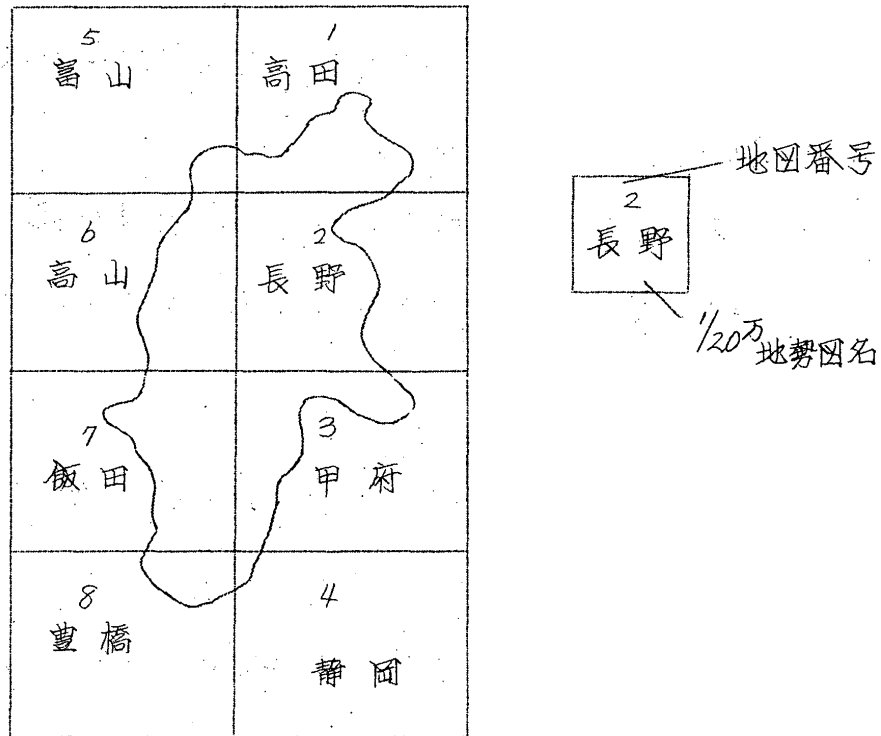
調査票の見方について、次の例のように解説する。

(例)

淡水魚類調査票の見方

- (1) 調査票は1水域の1淡水魚類ごとに作成してある。
- (2) 「取扱」欄が秘のものは、公表することにより乱獲のおそれがある等のため、生息地に関する事項が記載されていない。
- (3) 「種略号」は、調査対象種ごとに定めた略号で、「調査対象淡水魚類種名表」に表示してある。
- (4) 「地図番号」は、1/20万地勢図ごとに付された番号である。(下の「地図番号図」参照)

長野県・地図番号図



- (5) 「対照番号」は、1/20万地勢図ごとに淡水魚類の生息地に付けられた通し番号である。
- (6) 「備考」欄の「絶」「誤」の記号は、調査者が次のように判断していることを表わしている。

記号	判断
絶	かつては生息したが、今は絶滅して生息していないと判断される。
誤	文献や聞き込みの相手が種を誤って判断していると思われる。

8 淡水魚類調査票

淡水魚類調査票を報告書1頁に1枚の割で掲載する。

掲載する順は、表1「調査対象淡水魚類種名表」
に掲げた種名の順とする。

この際、調査票の「取扱」欄が秘の場合は、印刷
される調査票から生息地に関する事項を省略すること。

9 文献リスト

当調査で使用した文献について次の表にならいつり
まとめる。

なお、文献には通し番号(文献番号という。)をつ
ける。

文献番号	筆 者 名	発 行 年(西 暦)	文 献 名
1			
2			
3			

10 調査担当者名簿

当調査に実際に従事した者全員の所属・氏名・分担

分野を次の表にならとりまとめる。

番号	氏名	所属	分担分野
1	〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇〇	総括責任者
2	〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇

11 奥付け

奥付けの様式は、下図によるものとする。

<p>第2回 自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (淡水魚類)</p> <p>昭和54年3月31日</p> <p>編集</p> <p>〇 〇 〇 県</p>

環境庁委託調査

12 報告書付属資料

調査票の「取扱」欄が秘となっている調査票がある場合は、その写しを報告書の付属資料として1部添付する。

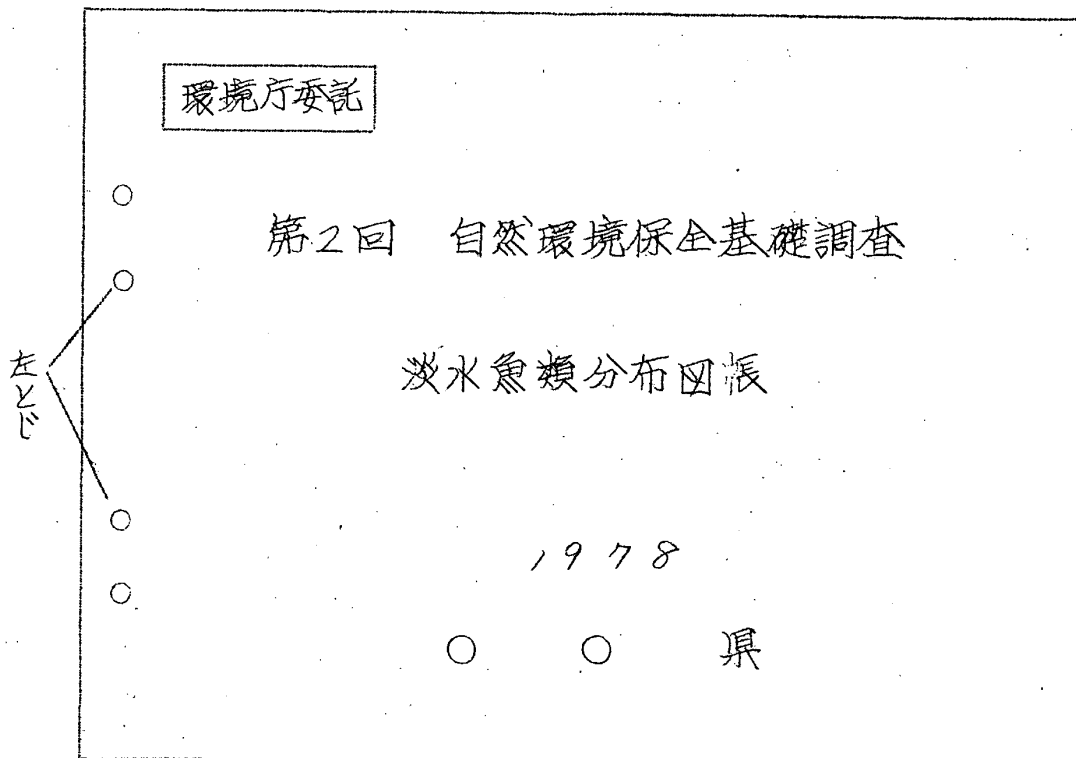
<別紙 4 >

淡水魚類分布図帳作成要領

1 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の1/20万地勢図の大きさとし、
表紙の色、厚さは報告書に準ずる。様式は下図によるものとする。

裏表紙は厚手のボール紙を使用する。



2 配列

配列は以下の順とする。

- (1) 表 紙
- (2) 地図番号図
- (3) 淡水魚類分布図 (地図番号の順とする。)
- (4) 裏 表 紙

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

第 6 動物分布調査（昆虫類）

1 9 7 8

環境庁自然保護局

第 6 動物分布調査（昆虫類）

目 次

動物分布調査（昆虫類）要綱	6 - 1
別紙 1 昆虫類分布図	6 - 5
別紙 2 昆虫類調査票	6 - 9
別紙 3 報告書作成要領	6 - 16
別紙 4 昆虫類分布図帳作成要領	6 - 26

表 目 次

表 1 指標昆虫類種名表	6 - 3
表 2 調査対象昆虫類選定基準	6 - 4

動物分布調査（昆虫類）要綱

1 調査の目的

わが国に生息する昆虫類の生息状況を把握するため、絶滅のおそれのある種、学術上重要な種等の生息地、分布について調査する。

2 調査実施者

国が神戸大学に委託して実施する。

3 調査対象地域

全国 47 都道府県全域について調査する。

4 調査実施期間

契約締結の日から昭和 54 年 3 月 31 日までとする。

5 調査内容

- (1) 調査の対象とする昆虫類は、表 1「指標昆虫類種名表」に掲げたもの（以下「指標昆虫類」という。）及び表 2「調査対象昆虫類選定基準」により、都道府県ごとに選定（50～100 種程度）された昆虫類

(以下「特定昆虫類」という。)とする。

(2) 調査事項は次のとおりとする。

ア 生息地の位置

イ 生息環境、生息状況の概況

ウ 保護の現状

6 調査方法

調査は、主として既存資料その他知見の収集等により、都道府県単位で実施する。

7 調査結果のとりまとめ

受託者は調査結果を都道府県を単位として、下記の図票にとりまとめる。

(1) 昆虫類分布図

昆虫類の分布は、別紙1「昆虫類分布図」(以下「分布図」という。)にならい国土地理院発行の1/20万地勢図に表示する。

(2) 昆虫類調査票

調査した事項は、別紙2「昆虫類調査票」(以下「調査票」という。)にとりまとめる。

8 調査結果の報告

受託者は調査結果をとりまとめ、報告書 部、
報告書付属資料 1 部、指標及び特定昆虫類分布図帳各
1 部を、それぞれ、別紙 3「報告書作成要領」、
別紙 4「昆虫類分布図帳作成要領」により作成し、昭
和 54 年 3 月 31 日までに、環境庁自然保護局長あて提
出する。

<表 1> 指標昆虫類種名表

種 名	種コード
ムカシトンボ	1
ムカシヤンマ	2
ハッチョウトンボ	3
ガロアムシ目	4
タガメ	5
ハルゼミ	6
ギフチョウ	7
ヒメギフチョウ	8
オオムラサキ	9
ゲンジボタル	10

<表 2> 調査対象昆虫類選定基準

A 日本国内では、そこにしか産しない種

例 ミヤジマトンボ（広島県宮島）

イイジマルリボシヤンマ（北海道釧路）

ヒメチャマダラセセリ（北海道アポイ缶）

B 分布域が国内若干地域に限定されている種

例 ミヤマモンキチョウ

ルーミスシジミ

C 比較的普通種であっても、北限・南限等分布限界

になる産地にみられる種

例 広島県におけるナガサキアゲハ

静岡県におけるクロコノマチョウ

D 当該地域において絶滅の危機にひんしている種

E 近年当該地域において絶滅したと考えられる種

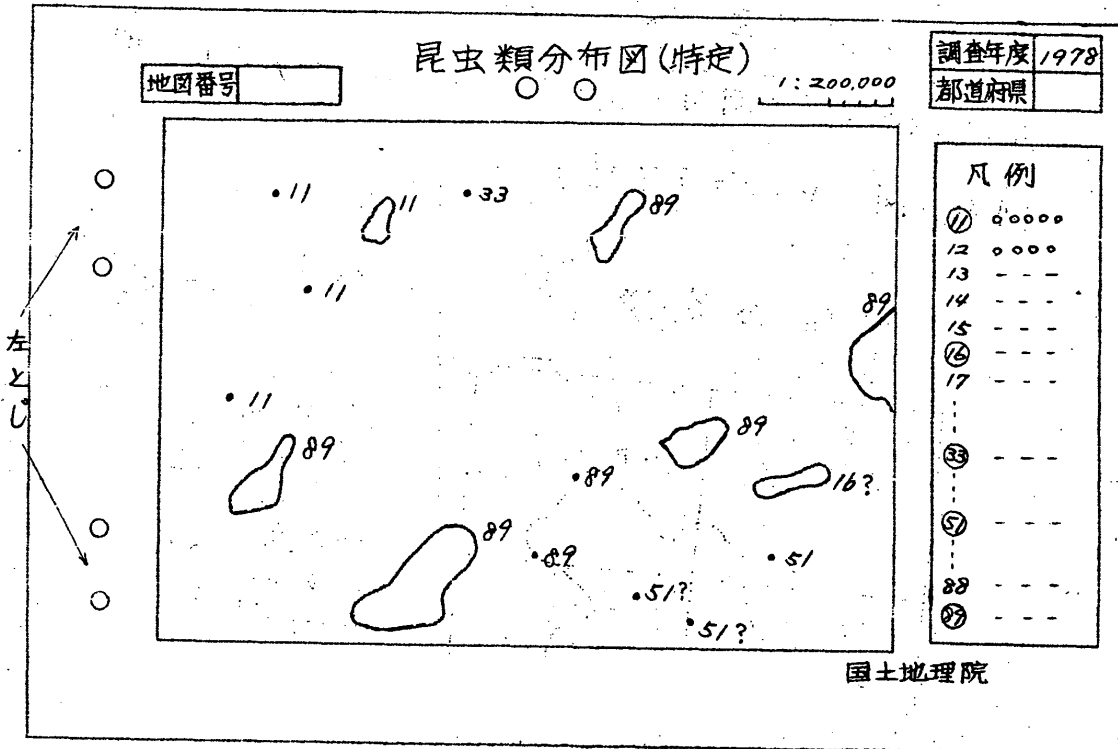
F 業者及びマニアなどの乱獲のため、当該地域での

個体数の著しい減少が心配される種

<別紙 1 >

昆虫類分布図

分布図例

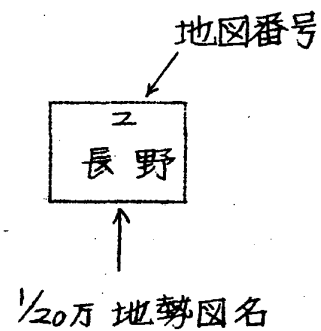
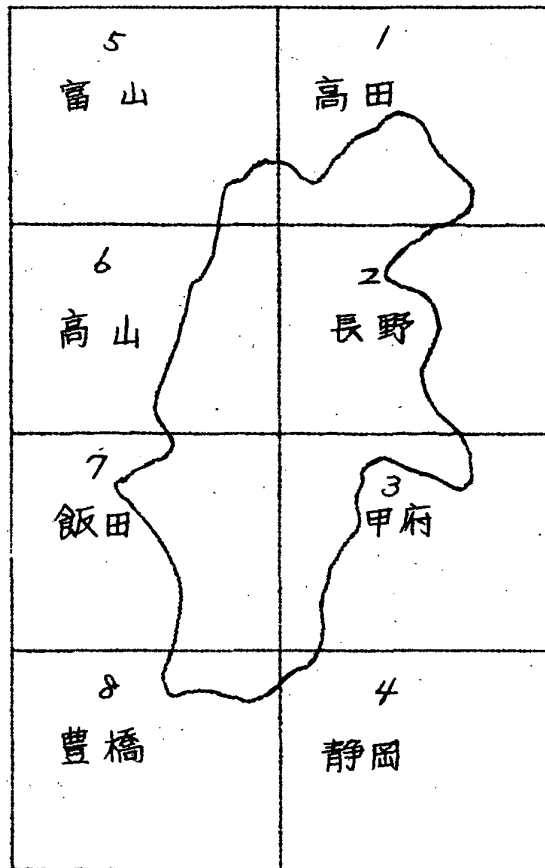


(分布図作成上の注意)

- 1 分布図は都道府県ごとに作成し、必ず国土地理院発行の1/20万地勢図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。
- 2 分布図は、指標昆虫類と特定混虫類に分けて、それぞれ1部ずつ作成する。

- 3 1/20万地勢図には、都道府県単位で東側から、北から南へ「地図番号」を打つ。(下図(以下「地図番号図」という)参照)

地図番号図(例:長野県)



- 4 調査の結果、昆虫類の分布が表示されていない地勢図が出てきても、当該都道府県にかかわりのある地勢図はすべて提出することとし、5の作業は、すべての地勢図について行う。

5 分布図例のように、地勢図の余白の所定の位置に「タイトル」(「昆虫類分布図(指標)」又は「昆虫類分布図(特定)」)、「地図番号」、「調査年度」(西暦)、「都道府県名」を黒インクで記入する。

6 対象種の生息地を黒線でくくり、その位置を示すとともに、種コードを記入する。

種コードとは、調査対象とされた昆虫類ごとに付された番号で、次のようにして定める。

(1) 指標昆虫類.....表1「指標昆虫類種名表」に示すとおり、種ごとに付された1から10までの番号とする。

(2) 特定昆虫類.....調査対象として選定された昆虫類に、都道府県ごとに、11からの通し番号を付す。

なお、くくり線は、幅0.5mm程度の線で引くものとし、生息地が小さくて黒線でくくれない場合は、小黑丸()で表示する。

また、文献や聞き込み等で生息するという情報が

あった場合でも現時点では、生息しないと調査者が考える場合には、種コードの後に「？」記号を付す。

- 7 同一地域に2種以上の昆虫類が重複して生息する場合は、くくり線等は同一のもので表示し、種コードを併記する。
- 8 調査票の「取扱」欄が秘の場合であっても、一応当該昆虫類の生息地を分布図に表示する。
- 9 地勢図右辺には分布図例のように、全ての指標昆虫類あるいは当該県で調査対象となった全ての特定昆虫類のリスト（種コード 種名の順に記入する）を貼付し、当該分布図に生息地が記入されている種については種コードを で囲む。

<別紙 2 >

昆虫類調査票

(調査票 様式)

昆虫類調査票		調査年度
(指標・特定)		1978
取 扱		
種コード	種 名 (和名)	目 名
		選定基準
		生息数
生息環境・生息状況		
保護の現状		
調査者	所 属	氏 名
地図番号	VZ05地勢図	地域名
		所在市町村
		市
		町
		村
		生息環境の現況
		良好
		不良
		不明
		調査
		生息数
		資料の種類
		現物
		天敵
		調査
		備考

(調査票裏面)

地図 番号	201 地勢図	地域名	所在市町村		生息環境の現状			資料の種類			備考
					良好	不良	破壊	現認	文献	調査	

(調査票記入上の注意)

- 1 調査票の様式は前頁に掲げるものとし、用紙は110kg 程度 B 5 版左側 2 つ穴あきとする。
- 2 調査票は、都道府県別に種ごとに作成する。
- 3 調査対象の種に応じて、タイトルの (指標・特定) の該当しない方を、2 本線をもって抹消する。
- 4 「調査年度」(西暦) 「都道府県」にはそれぞれ該当のものを記入する。
- 5 「取扱」には、公表することにより乱獲のおそれがある等、その昆虫類の生息地の公表が不都合な場合赤字で秘と記入する。
- 6 「種コード」は調査対象昆虫類に付された番号で、該当のものを記入する。
- 7 「種名 (和名)」、「目名」には、それぞれ該当するものを記入する。
- 8 「選定基準」には、その昆虫類が調査の対象として選定された理由を、表 2 「調査対象昆虫類選定基準」より選んで、その記号を記入する。2 つ以上の理由がある場合も、そのすべてを記入する。

なお、指標昆虫類の場合には、「指」と記入する。

- 9 調査票右上の「生息数」には、当該種の生息状況を県単位でおおまかに判断し、下記の記号により記入する。

記号	内容
-	いなくなった
+	稀
++	少い
+++	比較的普通にみられる
++++	多い

- 10 「生息環境・生息状況」には、生息環境の現状、種の特徴、生息数の増減傾向、絶滅の時期、生存に関する将来の見通し等について、知見のある場合記入する。

- 11 「保護の現状」には、天然記念物など当該昆虫類あるいは当該昆虫類生息地に対して現在とられている保護対策について具体的に記入するとともに、業

者などによる大量捕獲が知られている場合には、その旨記入する。

また、保護・管理に関して所見があれば記入してさしつかえない。

12 「調査者」には、当該調査票作成者の所属・氏名を記入する。

13 当該種の生息に関するデータについては、生息地ごとに以下のとおりにする。

(1) 「地図番号」、「1/20万地勢図」には、当該生息地が存する国土地理院発行1/20万地勢図の地図番号及び図幅名を記入する。

(2) 「地域名」には、当該生息地の具体的名称を記入する。

例 山 沢最上流部
湿原北西部

(3) 「所在市町村」には、当該生息地が属する、市郡、町村名を記入する。複数の町村にわたって生息する場合には、町村名を併記する。

(4) 「生息環境の現状」には、当該生息地における

昆虫類の生息環境の現状について、知見のある場合、次の中から選び該当する欄に を付す。

良好.....生息環境が良好に保たれている。

不良.....生息環境が改変されつつある。

破壊.....生息環境が破壊されてしまった。

(5) 「生息数」には、当該生息地における、当該種の生息状況について、知見のある場合、9に示した記号により記入する。

(6) 「資料の種類」には、当該種が、当該生息地において生息するという情報がどのような資料によって得られたかを次の中から選び該当する欄に を付す。

現認.....調査者が当該種の現物を確認しているもの

文献.....文献に生息に関する記載があるもの

聞込.....そこに生息するという話を聞いたもの

(7) 「備考」には、文献や聞き込み等で生息するという情報があった場合でも、現時点においてそこには生息しないと調査者が考えている場合には、「？」記号を付す。

<別紙3>

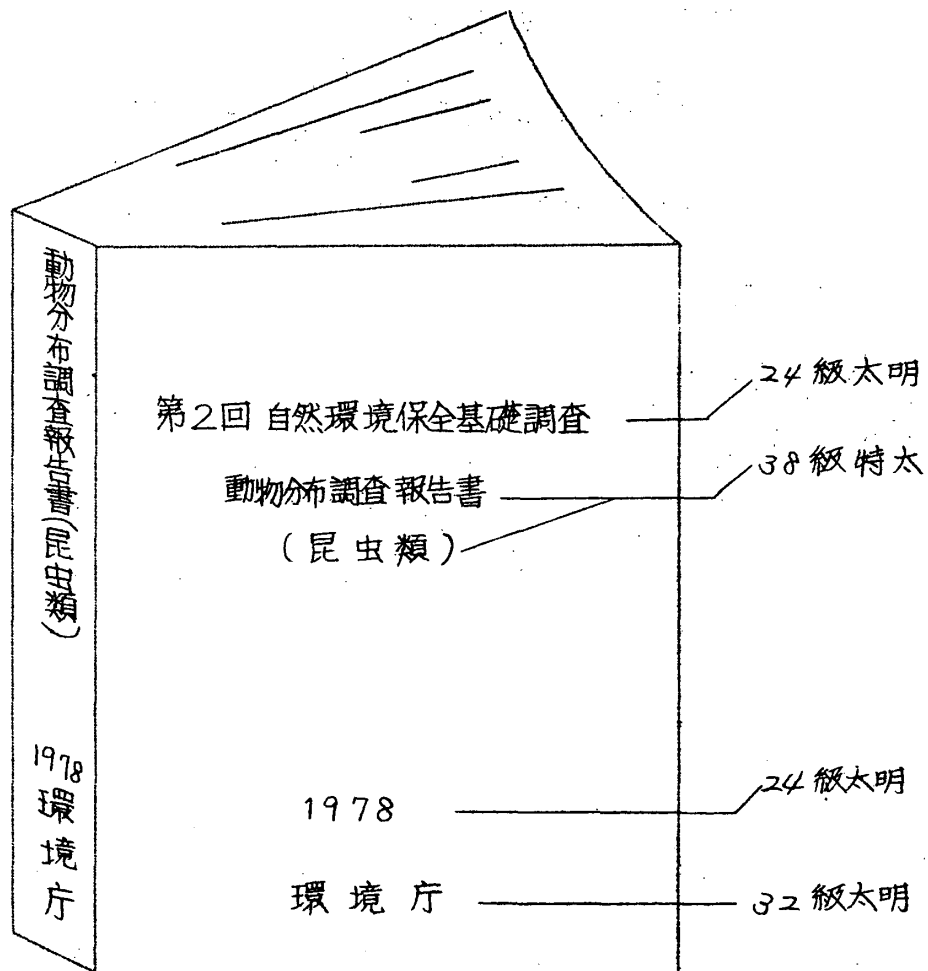
報告書作成要領

1 規格

B5版左とし横書きとする。

2 表紙及び背文字

表紙（及び裏表紙）は、橙色、厚さは215kg（レザック66Y程度）とし、様式は下図によるものとする。



3 配 列

報告書における各項目の配列は以下のとおりとする。

- (1) 目 次
- (2) 調査概要
- (3) 都道府県ごとの調査結果
 - ア 県の昆虫類の分布の概要
 - イ 県調査対象昆虫類種名表
 - ウ 指標昆虫類概略分布図（種ごと）
 - エ 特定昆虫類概略分布図
 - オ 昆虫類調査票の見方について
 - カ 昆虫類調査票
- (4) 調査担当者名簿

4 調査概要

調査の実施方法、調査結果のとりまとめ方法等の概要について記載する。時に次の項目については欠落のないように留意すること。

- (1) 調査項目

- (2) 調査方法
- (3) 調査対象昆虫類選定基準
- (4) 調査結果のとりまとめ方法

5 都道府県ごとの調査結果

調査結果は、都道府県ごとに次のようにとりまとめる。(行政コードの若い順とする。)

(1) 県の昆虫類の分布の概要

当該県の指標昆虫類、特定昆虫類の生息状況や分布についてその概要をとりまとめる。(指標昆虫類は種ごとにとりまとめる。)

特に当該県において絶滅したと思われる種、絶滅に頻していると思われる種及び昆虫類の生息環境が悪化している地域については、知見のある限り記載されることが望ましい。

また当該県で昆虫の調査が十分には実施されていない地域があれば、その旨を記載する。

(2) 県調査対象昆虫類種名表

当該県で調査対象とした昆虫類を次の例になら

い表にとりまとめる。

記入の順は「種コード」の若い順とする。

(例) 県調査対象昆虫類種名表

種コード	種名	選定基準	生息数
1	ムカシトンボ	指	+
3	ハツチョウトンボ	指	++
7	ギフチョウ	指	+
11	〇〇トンボ	A	++
12	△△トンボ	B	++
13	〇〇チョウ	○	+
89	〇〇カメムシ	○	+

(3) 指標昆虫類概略分布図(種ごと)

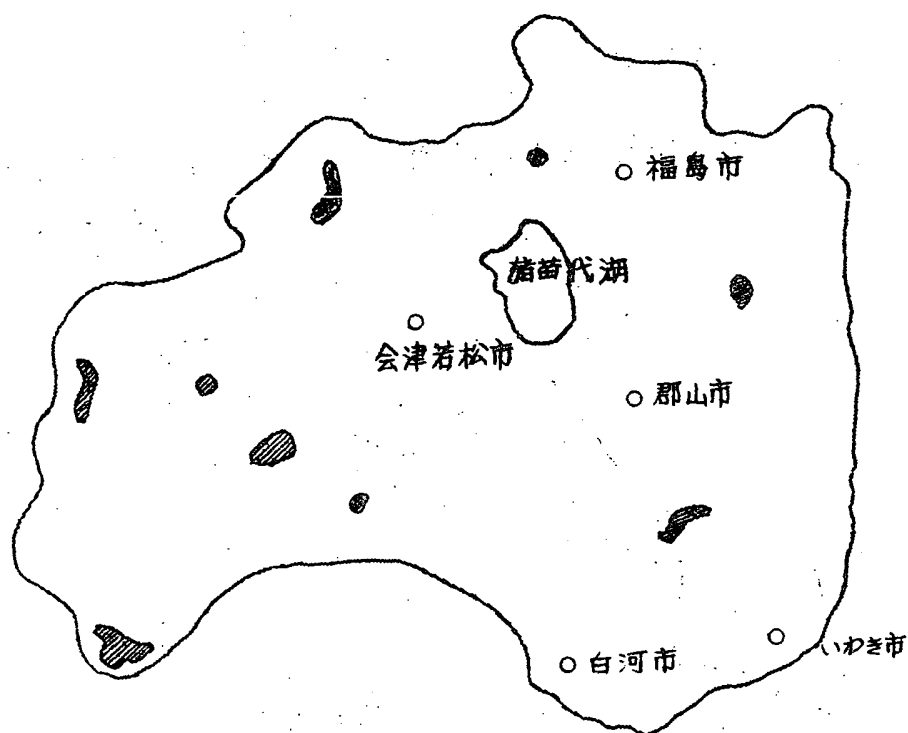
当該県の指標昆虫類の分布の概要を図示するため、概略分布図を指標昆虫類の種ごとに作成する。

概略分布図は、分布図(1/20万)を参考にして、当該県の概略図(B5版もしくはB4版に収まる

程度の大きさ)に、次の例にならい生息地を記入する。

(例) 福島県ハッチョウトンボ概略分布図

(種コード3)



(4) 特定昆虫類概略分布図

当該県の特定昆虫類の分布の概要を図示するため、概略分布図を作成する

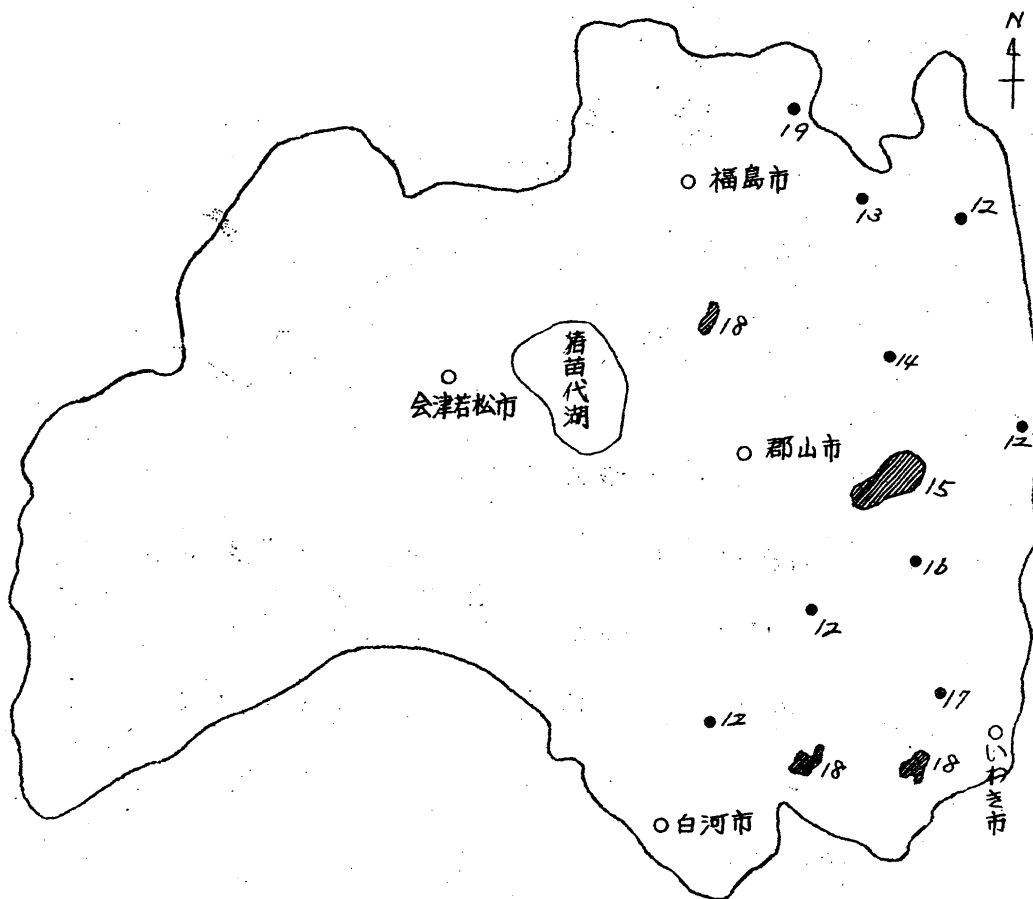
概略分布図は指標昆虫類の場合と同様に、当該県の概略図に次の例にならい、生息地を記入し、種コードを付す。

生息地の分布が多くて繁雑になる場合、適宜概

略図を昆虫の目単位でわけて作成してもさしつかえない。

この際調査票の「取扱」欄が、秘の種は、その旨を記して概略分布図から、その生息地を省略すること。

(例) 福島県特定昆虫類概略分布図(トンボ目)



(注 1) 生息地のわきの数字は種コードである。

(注2) トンボ(種コード11)の生息地、
トンボ(種コード12)の生息地の1
部についてはこの図に記載されてい
ない。

(5) 昆虫類調査票の見方について

調査票の見方について次の例のように解説する。

(例) 昆虫類調査票の見方

調査票は、昆虫の種ごとに作成してある。

「取扱」欄が秘のものは、公表すること
により乱獲のおそれがある等のため、生息
場所に関する事項が記載されていない。

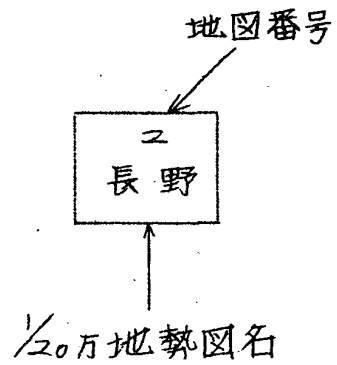
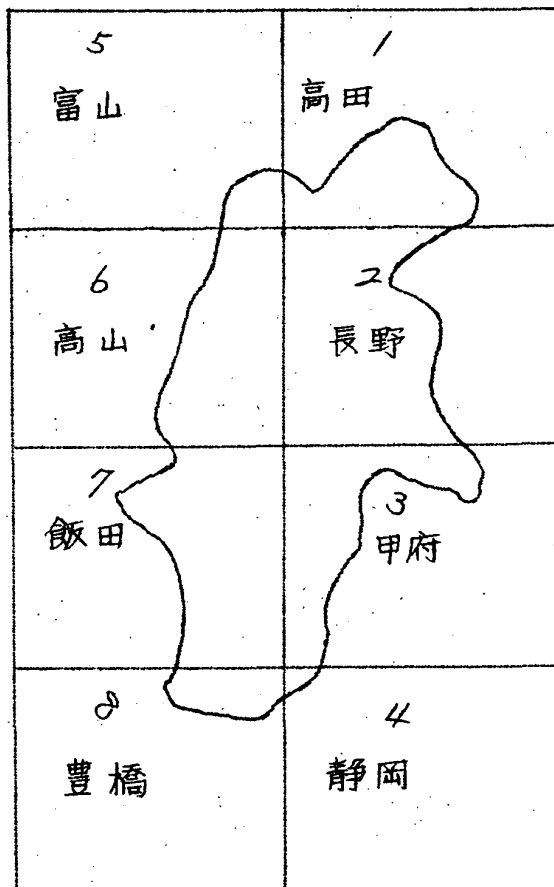
指標昆虫類以外で調査対象となった昆虫
類(特定昆虫類)は、 頁記載の「調査
対象昆虫類選定基準」に従って選ばれた。
それぞれの調査票の「選定基準」欄には、
その理由が記号で記載されている。

調査票右上の「生息数」欄には、当該昆
虫類の生息状況を県単位でおおまかに判断
して次の記号で記入してある。

-	いなくなった
+	稀
++	少い
+++	比較的普通にみられる
++++	多い

「地図番号」は1/20万地勢図ごとに付された番号である。(下の「地図番号図」参照)

長野県地図番号図



「生息環境の現状」欄は、生息地ごとの生息環境の現状について、次に従って該当する欄に が付されている。

良好……生息環境が良好に保たれている。

不良……生息環境が改変されつつある。

破壊……生息環境が破壊されてしまった。

「生息数」には、当該生息地における当該種の生息状況をおおまかに判断して、に示した記号で記入してある。

「備考」欄には、文献や聞き込み等で生息するという情報があった場合でも、現時点において、そこには生息しないと調査者が考える場合に「？」記号が付されている。

(6) 昆虫類調査票

昆虫類調査票を報告書1頁に1枚の割で掲載するものとし、その順番は、種コードの若

い順とする。

この際、調査票の「取扱」欄が秘の場合は、印刷される調査票から生息場所に関する事項を省略すること。

6 調査担当者名簿

当調査に実際に従事した者全員の所属・氏名・分担分野を次の表にならいつりまとめる。

氏名	所属	分担分野
〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇	総括責任者
△△△△	〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇県の直翅目
××××	〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇県、〇〇県の直翅目

7 奥付け

奥付けの様式は下図によるものとする。

第2回 自然環境保全基礎調査

動物分布調査報告書

(昆虫類)

昭和54年3月31日

調査受託者 住所 ○○○○

名称 ○○○○

環境庁委託調査

8 報告書付属資料

調査票の「取扱」欄が秘となっている調査票がある場合は、その写しを報告書の付属資料として1部添付すること。

<別紙 4 >

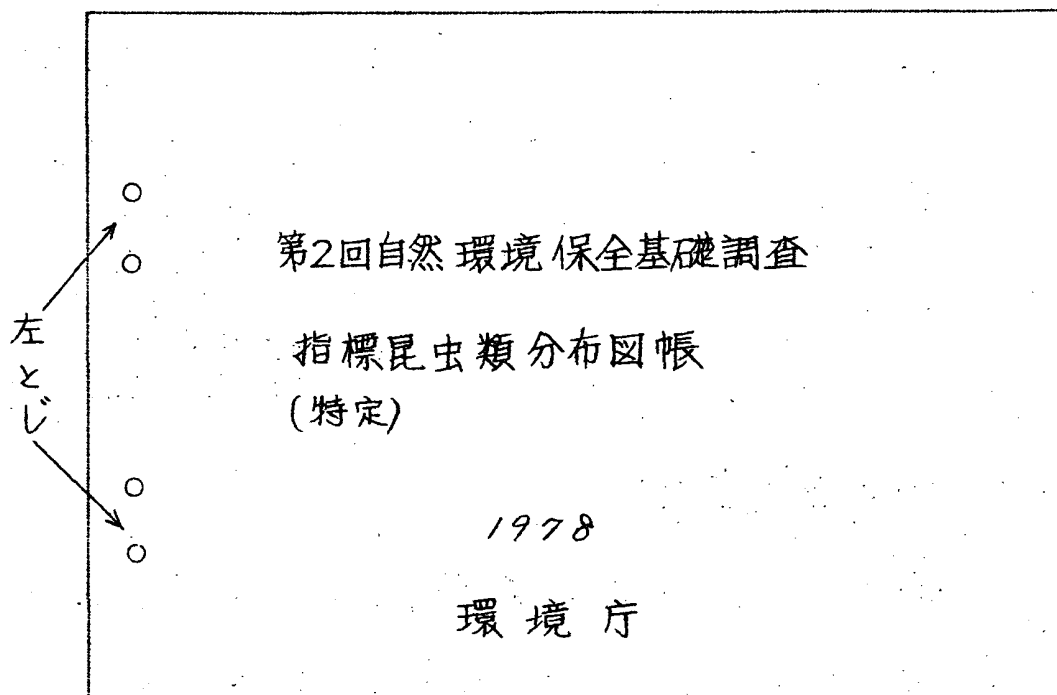
昆虫類分布図帳作成要領

1 昆虫類分布図帳は指標昆虫類及び特定昆虫類についてそれぞれ別に作成する。

2 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の1/20万地勢図の大きさとし、表紙の色、厚さは報告書に準ずる。様式は下図によるものとする。

裏表紙は厚手のボール紙を使用する。



3 配 列

配列は以下の順とする。

(1) 表紙

(2) 都道府県ごとの昆虫類分布図 (行政コード順)

ア 県地図番号図

イ 県指標昆虫類分布図または 県特定昆
虫類分布図

(3) 裏表紙

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

第 7 海 岸 調 査

1 9 7 8

環 境 庁 自 然 保 護 局

第 7 海 岸 調 査

目 次

海岸調査要綱	3
別紙 1 海岸調査実施要領	6
別紙 2 海岸改変状況図	13
別紙 3 海岸調査票	19
別紙 4 海岸改変状況図帳作成要領	24
別紙 5 海岸調査票綴作成要領	26
参 考	28

表 目 次

表 1 海岸（汀線）・海岸陸域区分表	8
表 2 立入可能性区分表	9
表 3 清澄度区分表	11
表 4 油汚染度区分表	11
表 5 ゴミ等漂着状況区分表	12
表 6 鳥獣保護区設定状況区分表	12

海岸調査要綱

1. 調査の目的

海岸（汀線）の自然状態及び海岸陸域の自然状態を調査し、わが国における海岸の状況を把握する。

2. 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

3. 調査対象地域

全国の海岸域全域（39 都道府県）について調査する。

4. 調査実施期間

契約締結の日から昭和 54 年 3 月 31 日までとする。

5. 調査内容

全国の海岸域全域において、次の項目について調査する。

- (1) 海岸（汀線）の自然状況
- (2) 海岸（汀線）における利用の状況
- (3) 海岸陸域の土地利用状況
- (4) 海岸域の汚染状況

6. 調査方法

「全国海岸域現況調査」(昭和50年3月 建設省河川局・建設省国土地理院)の「海岸区分計測図」を参考としながら現地確認調査を実施し、国土地理院発行の1/25万地形図(1/25万地形図が発行されていない場合は、1/5万地形図、以下同じ)上に海岸(汀線)の自然状況等の区分を行う。調査方法の詳細は、別紙1「海岸調査実施要領」による。

7. 調査結果のとりまとめ

受託者は調査結果を下記の図票にとりまとめる。

(1) 海岸改変状況図

調査した結果は、別紙2「海岸改変状況図」(以下「改変図」という。)にならい、国土地理院発行の1/25万地形図に表示する。

(2) 海岸調査票

調査事項は、別紙3「海岸調査票」(以下「調査票」という。)にとりまとめる。

8. 調査結果の報告

受託者は調査結果をとりまとめ、海岸改変状況図帳、海岸調査票綴各1部をそれぞれ別紙4「海岸改変状況図帳作

成要領」、別紙 5「海岸調査票綴作成要領」により作成し、
昭和 54 年 3 月 31 日までに、環境庁自然保護局長あて提
出する。

<別紙 1 >

海岸調査実施要領

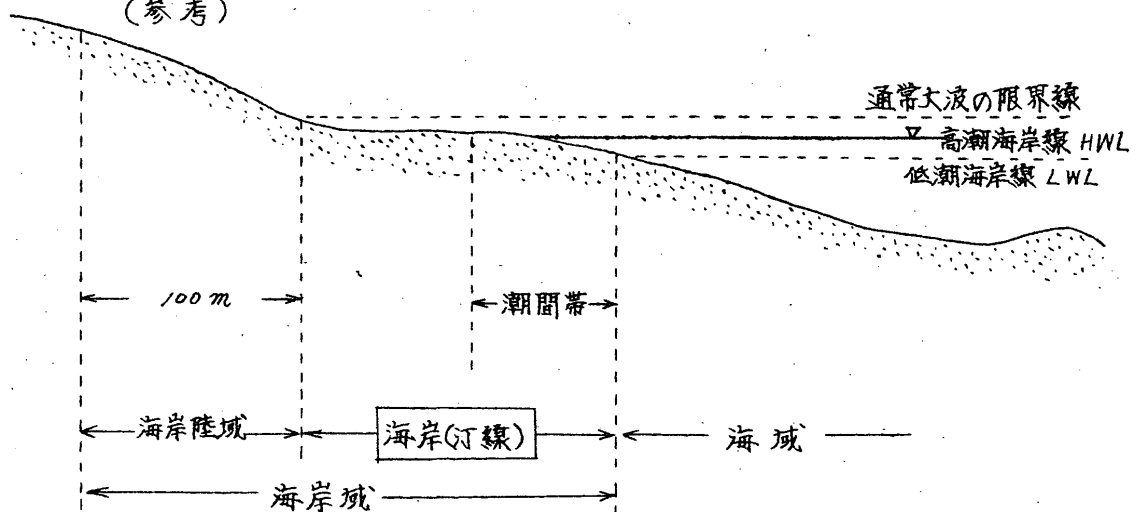
1. 通則

第2回自然環境保全基礎調査海岸調査は、この実施要領に従って行う。

2. 海岸等の定義

- (1) この調査で「海岸域」とは、海岸（汀線）及び海岸陸域の区域をいう。
- (2) 「海岸（汀線）」とは、低潮海岸線と通常大波の限界線との間の区域をいう。
- (3) 「海岸陸域」とは、通常大波の限界線より陸側100mの区域をいう。

(参考)



3. 調査対象海岸線

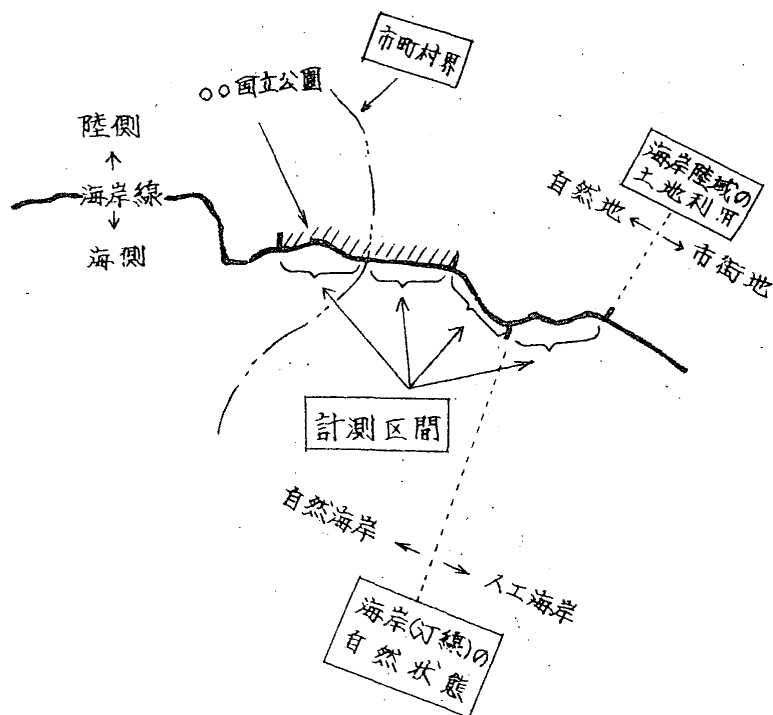
調査対象とする海岸線は、全国のすべての海岸線とする。

「全国海岸域現況調査」の「海岸区分計測図」に表示されている海岸線を参照すること。

4. 海岸線の区分

- (1) 島（北海道、本州、四国、九州もそれぞれ1つの島とみなす）、市町村、自然公園等の指定状況、海岸（汀線）の自然状態、海岸陸域の土地利用が変わるごとに区分線を入れて海岸線を区分する。

上記のように細かく区分された海岸線を、以下「計測区間」という（下図参照）



(2) 「海岸(汀線)の自然状態」、「海岸陸域の土地利用」

の区分は、表1「海岸(汀線)・海岸陸域区分表」によ
って行う。

表1 海岸(汀線)・海岸陸域区分表

		区 分		コード
海 岸 (汀 線)	自然海岸 海岸(汀線)が人工によ って改変されないで 自然の状態を保持し ている海岸	海岸(汀線)に浜 が 発達している	泥浜海岸	11
			砂質(砂浜)海岸	12
			岩石(磯浜)海岸	13
		海岸(汀線)に浜が発達してな い〔海食 崖等〕		14
	半自然海岸 道路、護岸、テトラポット等の 人工構築物で海岸(汀線)の一 部に人工が加えられているが、 潮間帯においては自然の状態を 保持している海岸(海岸(汀線) に人工構築物がない場合でも海 域に離岸堤等の構築物がある場 合は、半自然海岸とする。)	人工建築物の 前面に浜が発 達している	泥浜海岸	21
			砂質(砂浜)海岸	22
			岩石(磯浜)海岸	23
		人工建築物の前面には浜が発達してい ない		24
	人工海岸 海岸(汀線)が、港湾・埋立・浚 渫・干拓等の土木工事により著し く人工的に改変された海岸(人 為によってつくられた海岸)	埋立によってできた海岸		31
		干拓によってできた海岸		32
上記以外の土木工事によってできた海岸		33		
河口部	河川法の規定(河川法適用外の河川にも準用)による「河川 区域」の最下流端を陸海の境とする。		41	
海 岸 陸 域	自然地 (樹林地、砂浜、断崖等の自然が人工によって著しく改変さ れていないで自然の状態を保持している土地)			
	農業地 (水田、畑、牧野等の農業的な利用が行われている土地)			
	市街地・工業地			
	河口部			0

- (3) 区分の最小単位は100mとし、計測区間が100m未満になるような場合はその区間を折半し、その両端の区間にそれぞれ含める。

5 調査内容

海岸（汀線）の自然状態等の区分を地形図上に行い改変図を作成するほか、計測区間ごとに次の事項について調査する。

(1) 立入可能性

当該計測区間に立入りができるかどうか、立入りできない場合はその理由について、次の区分に従って調査する。

表2 立入可能性区分表

コード	立入可能性区分
0	立入りできる
1	崖、河口部などの地形的条件で立入りができない。
2	工場等が海岸域にあるため立入りができない。
3	その他の理由で立入りができない

(2) 利用状況

当該計測区間の海岸域及びその地先海域において、次に掲げる利用状況が見られるかどうかについて調査する。

- ア． 散 索
- イ． 海 水 浴
- ウ． 潮 干 狩
- エ． 魚 釣
- オ． 採 集
- カ． 網 漁
- キ． 養殖漁業

(注1) 「採集」とは、コンブ等海藻類、磯物の採取等の海岸利用のことである。

(注2) 「網漁」とは、地引き網、網干し場等の海岸利用のことである。

(3) 汚染状況

当該計測区間の海岸域における汚染状況について、次の項目ごとにその概要を調査する。

- ア． 「清澄度」

海水のきれいさの程度(清澄度)を次により区分する。

表3 清澄度区分表

コード	清澄度区分	
0	きれい	海の底がよく見え、快適な気分で泳げる程度 透視度 30cm 程度以上
1	すこし汚れている	海水に浸かることが気にならない程度 透視度 20～30cm 程度
2	かなり汚れている	海水に浸かる気がしない程度 透視度 20cm 程度以下

イ. 「油汚染」

廃油ボール等の付着状況を次により区分する。

表4 油汚染度区分表

コード	油汚染度区分
0	ほとんど見られない
1	すぐ見つかるが多くはない
2	多い。ベルト状、斑点状に見られる

ウ. 「ゴミ等」

ゴミ等の標着状況を次により区分する。

表5 ゴミ等漂着状況区分表

コード	ゴミ等漂着状況区分
0	ほとんど見られない
1	すぐ見つかるが多くはない
2	ゴミが非常に目立つ

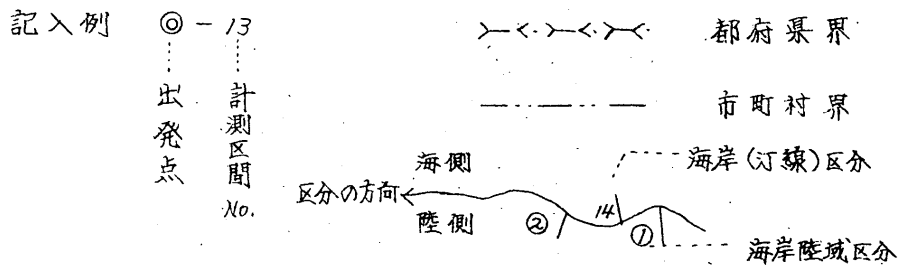
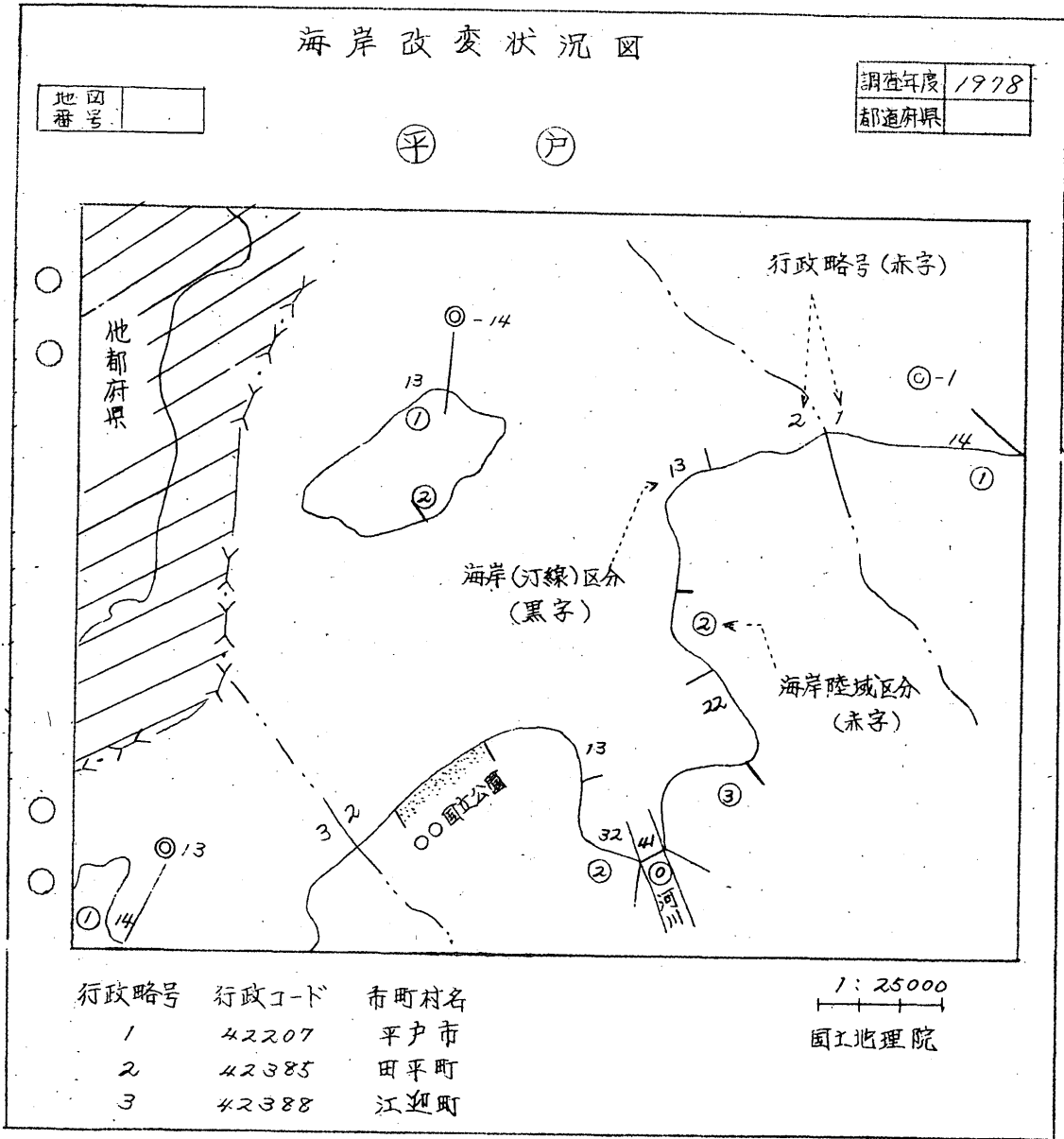
(4) 鳥獣保護区設定状況

当該計測区間内の海岸域における鳥獣保護区の設定状況を次により区分する。

表6 鳥獣保護区設定状況区分表

コード	鳥獣保護区設定状況区分
0	鳥獣保護区の設定がない
1	鳥獣保護区の設定がある
2	鳥獣保護区特別保護地区の指定がある

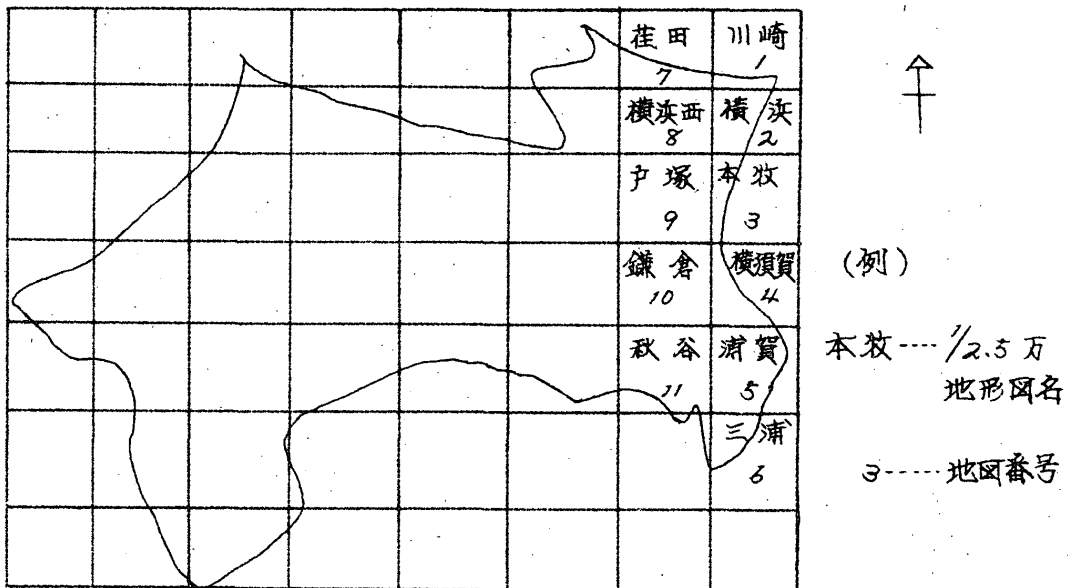
海岸 改 変 状 況 図



(改変図作成上の注意)

- 1 . 改変図には、必ず国土地理院発行の 1/2.5 万地形図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。
- 2 . 1/2.5 万地形図には、都道府県単位で東側から、北から南へ「地図番号」を打つ。(下図 (以下「地図番号図」という。) 参照)

地図番号図 (例 : 神奈川県)



- 3 . 改変図例のように、地形図の余白の所定の位置に「タイトル」「地図番号」「調査年度」(西暦) 「都道府県名」を記入する。

- 4 . 当該地形図に出現するすべての市町村に適宜通し番号（以下「行政略号」という。）を付す。
- 5 . 改変図例のように地形図の余白の所定の位置に、当該地形図に出現するすべての市町村の「行政番号」、「行政コード」、「市町村名」を記入する。（「行政コード」については別冊「コード番号一覧」参照）
- 6 . 海岸線の区分は、次の手順に従って行う。
 - （1） 海岸線の区分は国土地理院発行の1/2.5万地形図ごとに行う。
 - （2） 地形図に他都府県が表示されている場合は、他都府県の区域に粗いハッチをしるし、当該都府県の区域と区別する。
 - （3） 市町村界を赤鉛筆で明示し、市町村界と海岸線との交点の海側の市町村界の両側に行政略号を赤鉛筆で記入する。
 - （4） 「出発点」（海岸線の区分を開始する点をいう。）
 - ア . 小さな島のように海岸線が地図の枠（図郭）と交わらない場合には、適当な点から区分を始めて、進行方向に向って陸を左に見るように区分する。

イ． 海岸線が地図の枠と交わる場合には、枠上の点から
区分を始めて、進行方向に向って陸を左に見るように
区分し、他の枠上の点で終るようにする。

ウ． いずれの場合も、区分の出発点には、改変図例のよ
うに 印を記入する。

(5) 「海岸（汀線）区分」

表 1 「海岸（汀線）・海岸陸域区分表」による 12 種の
区分に従って出発点から海岸（汀線）を区分して行く。

区分点には、その海側に短い区分線（長さ 3 mm 程度）
を黒のボールペンで引くとともに、その海岸（汀線）の
区分を示すコード（表 1 参照）を区分線と区分線の上に
黒のボールペンで記入する。

(6) 「海岸陸域区分」

海岸（汀線）区分と同様に、表 1 「海岸（汀線）・海
岸陸域区分表」による 4 種の区分に従って、出発点から
海岸陸域を区分して行く。

区分点には、その陸側に短い区分線（長さ 3 mm 程度）
を赤のボールペンで引くとともに、その海岸陸域の区分
を示すコード（表 1 参照）を区分線と区分線の上に赤の
ボールペンでで囲んで記入する。

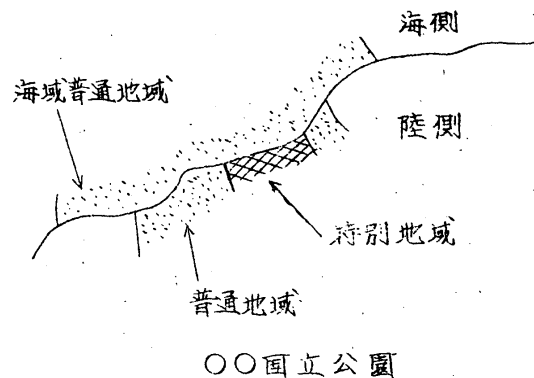
(7) 海岸域に自然公園、自然環境保全地域等(以下「保全地域」という。)が指定されている場合は、地種区分ごとに、海岸線に沿って3mm程度の幅に色鉛筆でうすく彩色する。使用する色は、下記の表の指定色に従う。

また、地種区分の区域界と海岸線の交点には、地種区分の指定色と同一色の区分線(長さ3mm程度)をひく。

また、保全地域の名称を地形図に黒のボールペンで記入する。

保全地域	地種区分	指定色	色鉛筆の指定
自然公園	特別保護地区	橙色	三菱ポリカラー No.7500 4
	特別地域	ピンク色	" 13
	普通地域	黄緑色	" 5
自然環境 保全地域等	原生自然環境 保全地域	橙色	" 4
	特別地区	ピンク色	" 13
	普通地区	黄緑色	" 5

(例)



(8) 上記による、当該地形図における海岸線の区分終了後、
各計測区間に 1 から始まる通し番号を付す。(以下「
計測区間 No.」という。)

地形図には、各出発点に、当該計測区間の計測区間 No.
を記入する。出発点以外の計測区間には、計測区間 No.
は記入しない。

(例)

- 13
⋮ ⋮
出 計
発 測
点 区
 間
 No.

海岸調査票

(調査票様式)

海岸調査票															調査年度	1978																
															都道府県	長崎県																
地 番 号	地形図名		技番		計 画 区 間 No.	島 名	島 コ ー ド	市 町 村 名	行 政 コ ー ド	保 全 地 域 名	保 全 地 域 区 分		海 岸 区 分	海 岸 陸 域 区 分	立 入 可 能 性	利 用 状 況						汚 染 状 況			高 速 保 護 区	備 考	出 発 点 か ら の 距 離 (km)	区 間 長 (km)				
	地域名 コード	地種区 分コード	散 敷	海 水 浴							潮 干 狩	魚 釣				採 集	網 漁	養 殖 漁	清 澄 度	油 汚 染	コ シ 等											
00	平戸	2.5町 5町	1																													
(記入例)																																
①	九州	004	平戸市	207							0000	0	14	①	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
2	"	004	田平町	385							0000	0	14	①	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
3	"	004	"	385							0000	0	13	①	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0						
7	"	004	"	385							0000	0	41	②	1	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0							
10	"	004	"	385	〇〇国立公園						0125	2	13	②	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1						
⑬	"	004	江迎町	388							0000	0	14	①	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1					
⑭	〇〇シマ	078	田平町	385							0000	0	13	①	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0						
15	"	078	"	385							0000	0	13	②	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1						

(調査票記入上の注意)

- 1 調査票の様式は、前頁に掲げるものとし、B4版左側2つ穴あきとする。
- 2 調査票は、1/2.5万地形図の図幅ごとに作成する。
- 3 「地図番号」、「地形図名」には、改変図と対照できるように、それぞれ該当するものを記入する。また、地形図の種類(1/2.5万または1/5万の別)を で囲んで示す。
- 4 「枝番」には、同一地形図に関する調査票が2枚以上にわたる場合に、当該調査票が何枚目のものであるかを示す番号を記入する。
- 5 「調査年度」、「都道府県」にはそれぞれ該当のものを記入する。
- 6 「計測区間 No.」には、1計測区間ごとに1から始まる通し番号を記入する。

また、当該計測区間が「出発点」にあたる場合には、計測区間 No.の数字を で囲む。
- 7 「島名」、「市町村名」、「保全地域名」には、それぞれ当該計測区間が属する島しょの名称、市町村名、保全地域名を記入する。

- 8 「島コード」, 「行政コード」, 「地域名コード」, 「地種区分コード」には、別冊「コード番号一覧」により該当するものを記入する。
- 9 「海岸（汀線）区分」には、改変図から当該計測区間の海岸（汀線）区分を読みとって、そのコードを記入する。
- 10 「海岸陸域区分」には、改変図から当該計測区間の海岸陸域区分を読みとって、そのコードを記入する。
- 11 「立入可能性」には、表2「立入可能性区分表」に従って当該計測区間への立入可能性をコードで記入する。
- 12 「利用状況」には、当該計測区間の海岸域での利用状況について、該当する欄に数字の「1」、該当しない欄には数字の「0」を記入する。
- 13 「汚染状況」には、当該計測区間の海岸域での汚染状況について、次に従って記入する。
 - (1) 「清澄度」には、表3「清澄度区分表」に従って海水の清澄度をコードで記入する。
 - (2) 「油汚染」には、表4「油汚染度区分表」に従って油汚染の状況をコードで記入する。
 - (3) 「ゴミ等」には、表5「ゴミ等漂着状況区分表」に

従ってゴミ等の漂着状況をコードで記入する。

- 14 「鳥獣保護区」には、当該計測区間の海岸域における鳥獣保護区の設定状況について、表6「鳥獣保護区設定状況区分表」に従って該当するコードを記入する。
- 15 「備考」には、発電所、染色工場等、海岸域に強い影響を及ぼすようなものが、当該計測区間内にある場合に、その旨を記入する。
- 16 「出発点からの距離」、「区間長」には記入しなくてよい。(54年度計測予定)

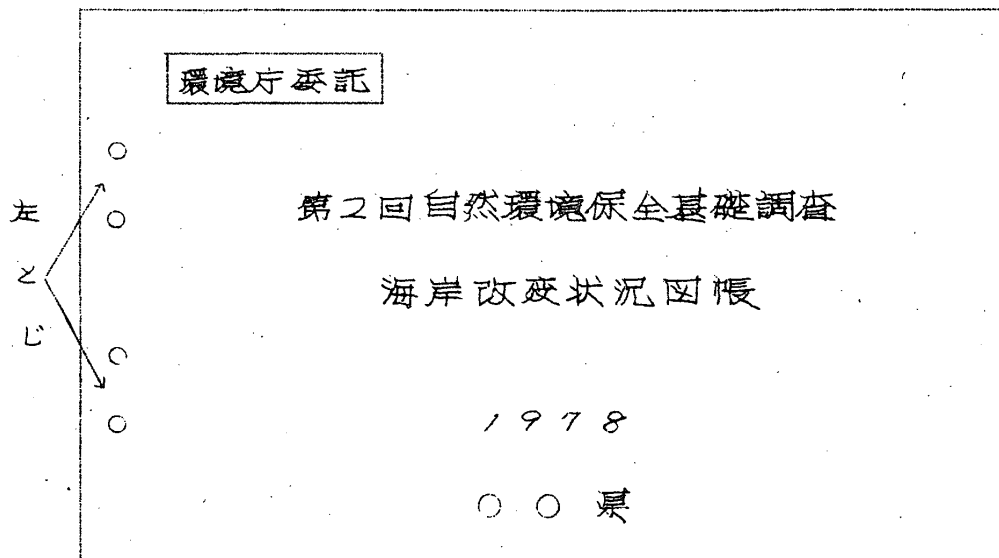
<別紙 4 >

海岸改変状況図帳作成要領

1 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の1/2.5万地形図の大きさとし、表紙の色は、コソメ色、厚さは215kg（レザック66程度）とする。様式は下図によるものとする。

裏表紙は、厚手のボール紙を使用する。



2 配列

配列は以下の順とする。

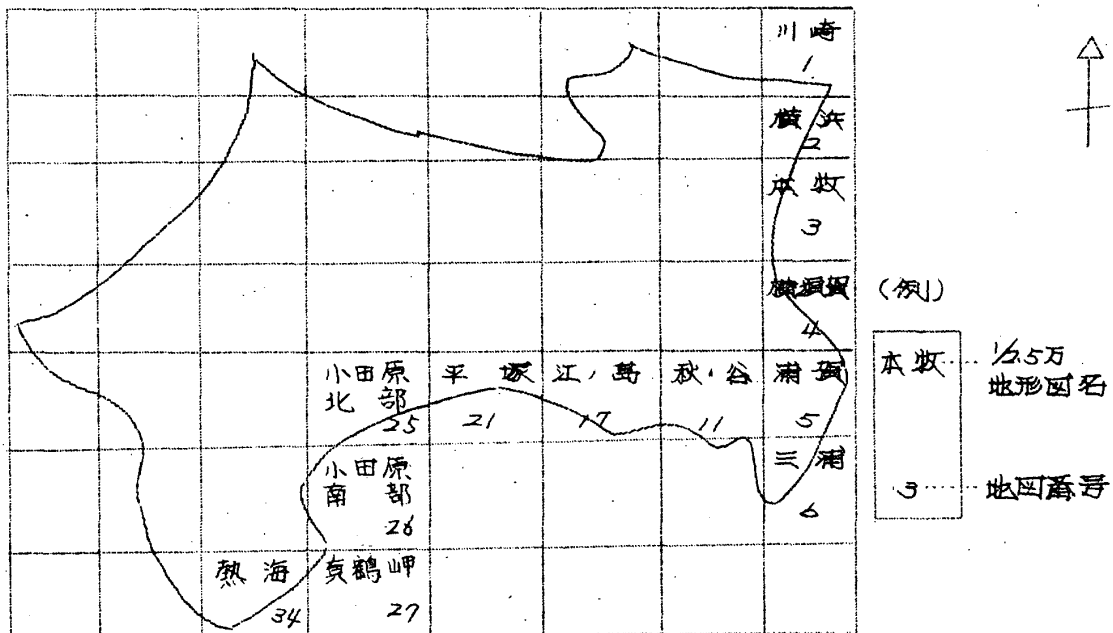
- (1) 表紙
- (2) 地図番号図
- (3) 海岸改変状況図（地図番号の順とする。）
- (4) 裏表紙

3 地図番号図

地図番号図には、提出されている図幅についてのみ地形図名と地図番号を記入し、その他の図幅のところには何も記入しないこと。

(例)

県地図番号図

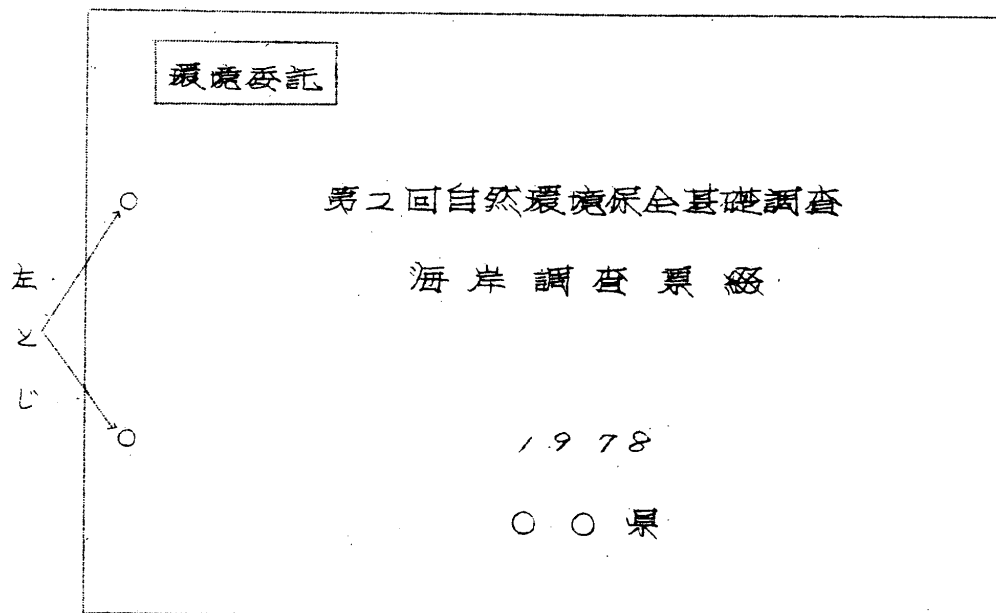


<別紙 5 >

海岸調査票綴作成要領

1 表紙及び裏表紙

表紙（及び裏表紙）は、B4版の大きさとし、コソメ色、厚さは215kg（レザック66程度）とする。様式は下図によるものとする。



2 配列

配列は以下の順とする。

- (1) 表紙
- (2) 保全地域コード番号一覧表
- (3) 海岸調査票（地図番号、枝番の順とする。）
- (4) 裏表紙

3 保全地域コード番号一覧表

当該県のすべての都道府県立自然公園及び都道府県自

然環境保全地域の名称とコード番号を次の表に整理する。

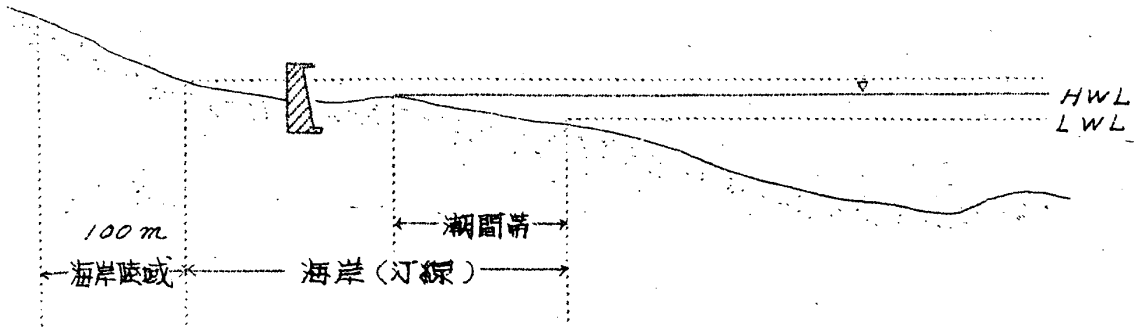
	コード	保全地域名
県立自然公園		
県自然環境保全地域		

なお、保全地域のコード番号の付け方は、別冊「コード番号一覧」によること。

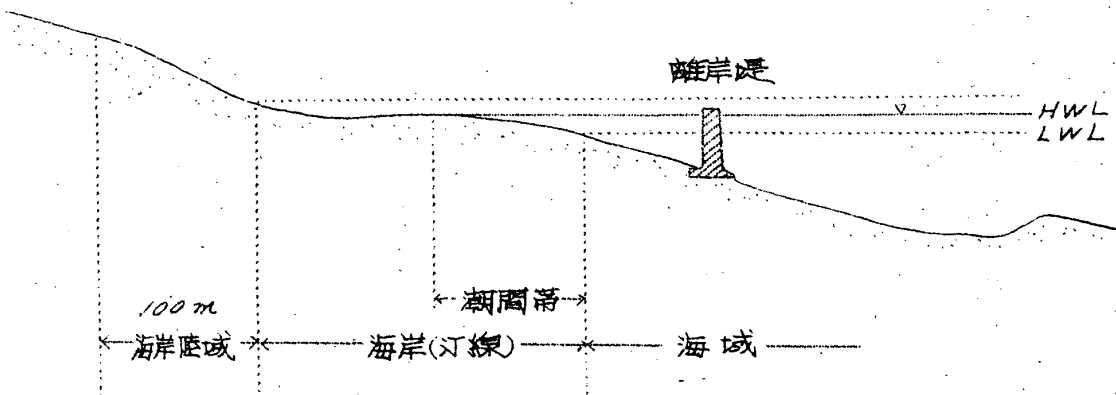
<参考>

半自然海岸

海岸（汀線）の一部に人工構築物があるが、潮間帯にはない。



海岸（汀線）には人工構築物はないが、海域に離岸堤等人工構築物がある。



人工海岸

潮間帯に人工構築物がある。

